

# 仙台平野の遺跡群21

-平成22年度発掘調査報告書-

六反田遺跡第6~8次調査・鳥居塚古墳第3~5次調査  
南小泉遺跡第64次調査・大野田官衙遺跡第3~6次調査

2011年3月

仙台市教育委員会

# 仙台平野の遺跡群21

-平成22年度発掘調査報告書-

六反田遺跡第6～8次調査・鳥居塚古墳第3～5次調査  
南小泉遺跡第64次調査・大野田官衙遺跡第3～6次調査

2011年3月

仙台市教育委員会

## 序 文

仙台市は「杜の都・仙台」という愛称で広く親しまれ、四季折々の豊かな自然にあふれています。仙台の風景は、私たち市民の誇りであるとともに、将来へ守るべき大切な財産でもあります。本報告書には、各種開発に先立ち、平成22年度に発掘調査を実施した六反出遺跡、鳥居塚古墳、南小泉遺跡、大野田宮衙遺跡の調査結果を収録しています。

今回の調査においても、先人の生活文化を知る上で貴重な歴史資料が発見されました。それらは、かつてそこで生活を営んでいた人々の様子を、私たちに生き生きと語りかけてくれます。先人達の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へ継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な仕事であります。地域が育んだ文化を語る上で、歴史や文化資源がその根底を成しているからです。

本報告書が、学術研究のみならず学校教育や生涯学習などのあらゆる場面で活用され、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただきました多くの方々に心より深く感謝申し上げ、序とさせていただきます。

平成23年3月

仙台市教育委員会  
教育長 青沼 一民

## 例　　言

1. 本書は、平成22年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡詳」の発掘調査報告書である。
2. 本書は、仙台市教育委員会が実施した個人住宅建築に伴う六反田遺跡第6～8次、鳥居塚古墳第3～5次、南小泉遺跡第64次、大野田官衙遺跡第3～6次の各発掘調査報告を合本にした報告書である。
3. 本書の編集・執筆は、仙台市教育委員会文化財課調査監修係の担当職員の協議のもとに、廣瀬真理子が行った。
4. 遺物実測やトレース等の整齊作業は、吉野信と向田文化財整理収蔵室の作業員が行った。
5. 本書に関わる遺物・写真・実測図面等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
6. 本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原：1999)に準拠した。
7. 本書中で使用した地形図は国土地理院発行の1：25,000『仙台市東南部・西南部』の一部を使用している。
8. 座標値は、日本測地系第X系による。
9. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。
10. 遺構は種別ごとに次の略号を用いた。

S B : 掘立柱建物跡      S D : 滝跡      S I : 穴穴住居跡  
S K : 上坑      P : ピット      S X : 性格不明遺構

11. 遺物の登録は、以下の分類と略号を用いた。

A : 楣文土器      B : 弥生土器      C : 土師器（非ロクロ）      D : 土師器（ロクロ）  
E : 須恵器      F : 丸瓦      G : 平瓦      I : 陶器      J : 磁器      K : 石器・石製品  
L : 木製品      N : 金属製品      P : 土製品      S : 塗輪

12. 土師器実測図における網かけは、黒色処理されていることを示している。
13. 遺物観察表のカッコ内の法量のうち、器窓は残存値を、また口径および底径は復元値を示している。
14. 六反田遺跡、鳥居塚古墳、大野田官衙遺跡については、現在「富沢駅周辺地区画整理事業」に伴う発掘調査がすんでおり、その調査成果と対応させ、基本層の層位名を付した。
15. 本文中の「灰白色火山灰」(庄子・山田1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

庄子貞雄・山田一郎1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城－昭和54年度発掘調査概報－』  
宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会2000「沼内遺跡第1～3次発掘調査」仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田aと白頭山（長白頭）を中心に—」『日本律令制の展開』青川弘文館

# 目 次

序文

例言

目次

## I 調査計画と実績

1 調査体制	1
2 調査計画	1
3 調査実績	1

## II 六反田遺跡第6次発掘調査報告

1 調査要項	2
2 調査に至る経過と調査方法	2
3 遺跡の位置と環境	2
4 基本層序	4
5 発見遺構と出土遺物	4
6 まとめ	6

## III 六反田遺跡第7次発掘調査報告

1 調査要項	9
2 調査に至る経過と調査方法	9
3 基本層序	9
4 発見遺構と出土遺物	9
5 まとめ	15

## IV 六反田遺跡第8次発掘調査報告

1 調査要項	20
2 調査に至る経過と調査方法	20
3 基本層序	20
4 発見遺構と出土遺物	20
5 まとめ	22

## V 烏居塚古墳第3次発掘調査報告

1 調査要項	23
2 調査に至る経過と調査方法	23
3 遺跡の位置と環境	24
4 基本層序	24
5 発見遺構と出土遺物	24
6 まとめ	25

## VI 鳥居塚古墳第4次発掘調査報告

1 調査要項	27
2 調査に至る経過と調査方法	27
3 基本層序	27
4 発見遺構と出土遺物	27
5 まとめ	27

## VII 鳥居塚古墳第5次発掘調査報告

1 調査要項	31
2 調査に至る経過と調査方法	31
3 基本層序	31
4 発見遺構と出土遺物	31
5 まとめ	34
6 第3～5次調査の成果	34

## VIII 南小泉遺跡第64次発掘調査報告

1 調査要項	36
2 調査に至る経過と調査方法	36
3 遺跡の位置と環境	37
4 基本層序	37
5 発見遺構と出土遺物	39
6 まとめ	39

## IX 大野田官衙遺跡第3～6次発掘調査報告

1 調査要項	43
2 調査に至る経過と調査方法	43
3 遺跡の位置と環境	43
4 基本層序	43
5 発見遺構と出土遺物	44
6 まとめ	47

# I 調査計画と実績

## 1 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課 課長 吉岡恭平

調査調整係 主幹兼係長 佐藤甲二

主査 荒井 格

主事 小泉博明 廣瀬真理子 及川謙作 猪狩俊哉 大久保弥生

文化財教諭 古野 信 鈴木健弘

## 2 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、個人専用住宅他補助対象事業費として、総経費7,686千円、国庫補助金額3,715千円の予算で計画した。発掘調査の実施については、以下の実施計画を立案した。

調査対象地	調査予定期日	調査予定期間	調査面積
仙台市各区内	39地点	平成22年4月~平成23年3月	個人住宅226

第1表 調査計画

## 3 調査実績

今年度の調査実績は、第2表に示したとおりである。調査原因は、全て個人専用住宅の建築である。なお、第2表中に調査次数がついている箇所については、本表にその成果を掲載している。

NO.	調査地名	対象敷地面積	調査面積	調査期間	回数	監査等回数
1	喜天原跡	69.5af	21m <sup>2</sup>	4月20日~4月26日		H21 180~30
2	今木遺跡	71.56af	30m <sup>2</sup>	5月2日		H21 182~235
3	伊豆山B遺跡	78.24af	30m <sup>2</sup>	5月19日~5月13日		H22 132~278
4	上山遺跡	69.5af	22.5m <sup>2</sup>	5月23日~6月22日		H22 114~1
5	島町塙内遺跡	24.61af	22m <sup>2</sup>	6月2日~6月9日	3次	H22 114~15
6	伊賀三井寺跡	67.37af	18m <sup>2</sup>	7月5日		H21 182~147
7	福ノ山遺跡	55.06af	22.4m <sup>2</sup>	6月21日~6月25日		H22 114~47
8	六ヶ山北跡	79.41af	24m <sup>2</sup>	7月3日~7月4日	7次	H22 114~26
9	八戸山武跡	65.5af	21m <sup>2</sup>	6月28日~7月2日	6次	H22 114~3
10	芦田山遺跡	69.9af	22.5m <sup>2</sup>	8月2日		H22 114~43
11	南小岱山遺跡	54.6af	30m <sup>2</sup>	7月30日~8月29日		H22 114~55
12	西小岱山	111.02af	30m <sup>2</sup>	7月20日		H22 114~62
13	浦ノ里遺跡	94.50af	26.1m <sup>2</sup>	8月2日~8月3日		H22 114~7
14	大久保町石造跡	69.56af	25.5m <sup>2</sup>	8月3日~8月4日	3次	H22 114~87
15	小山廻石造跡	85.79af	25m <sup>2</sup>	8月23日~8月27日		H22 114~95
16	大久保町新堀跡	120.66af	24m <sup>2</sup>	8月30日~8月31日	4次	H22 114~63
17	大久保町白鳥城跡	79.00af	24m <sup>2</sup>	8月3日~8月11日	5次	H22 114~108
18	穴吹丘遺跡	47.2af	15m <sup>2</sup>	9月6日~9月10日	8次	H22 114~61
19	片貝山遺跡	88.9af	30m <sup>2</sup>	8月30日		H22 114~93
20	鳥取塙内遺跡	69.23af	40m <sup>2</sup>	9月3日~9月23日	4次	H22 114~88
21	喜多原遺跡	86.6af	3.6m <sup>2</sup>	8月29日		H22 114~46
22	八山遺跡	45af	11.87m <sup>2</sup>	9月29日		H22 114~77
23	大久保町御堂跡	49.2af	16.5m <sup>2</sup>	9月1日~9月2日	6次	H22 114~113
24	荒畠山遺跡	72.64af	42.5m <sup>2</sup>	9月15日~9月17日	5次	H22 114~121
25	小山廻石造跡	87.36af	25m <sup>2</sup>	9月14日~9月22日		H22 114~115
26	南小岱山遺跡	83.63af	26.1m <sup>2</sup>	10月5日~10月6日		H22 114~59
27	片野塙内	65.50af	28.8m <sup>2</sup>	11月8日~11月9日		H22 114~132
28	喜多原遺跡	72.50af	24m <sup>2</sup>	6月19日~6月20日	60次	H22 114~159
29	穴吹丘遺跡	77.42af	32m <sup>2</sup>	11月15日~11月18日		H22 114~166
30	内山遺跡	47.2af	8.6m <sup>2</sup>	11月22日		H22 114~164
31	山下塙内遺跡	83.9af	26m <sup>2</sup>	12月9日~		H22 114~198
32	久ノ口山遺跡	57.96af	27m <sup>2</sup>	12月4日~12月5日		H22 114~219
33	本山遺跡	59.62af	16m <sup>2</sup>	12月20日~12月21日		H22 114~226
34	片野塙内	75.07af	21m <sup>2</sup>	1月17日		H22 114~243
35	大久保町新堀跡	71.97af	21m <sup>2</sup>	2月1日~2月3日		H22 114~250
36	酒ノ段遺跡	71.42af	21m <sup>2</sup>	2月5日~2月10日		H22 114~258
37	今泉遺跡	116.31af	20m <sup>2</sup>	2月21日~2月22日	9次*	H22 114~245
38	酒ノ段遺跡	123.75af	45.8m <sup>2</sup>	3月8日~3月9日		H22 114~267
39	大小塙内	82.01af	20m <sup>2</sup>	3月3日~3月4日		H22 114~280

※今泉遺跡9次は、年度末の調査となったため、測定実績表への掲載にとどめ、来年度に報告を実施することとする。

第2表 調査実績

## II 六反田遺跡第6次発掘調査報告

### 1 調査要項

遺跡名	六反田遺跡(宮城県遺跡登録番号01189)
調査地點	仙台市太白区大野田字六反田27-6の一部、27-7の一部
調査期間	平成22年6月28日～7月2日
調査面積	65.5m <sup>2</sup>
調査面積	21m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査課係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年4月6日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条(H22教文第114-3号で回答)に基づき実施した。調査は平成22年6月28日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北3.0m×東西7.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびⅠ層を除去後、人力によりⅣ層を掘下げ、V層上面で遺構検出作業を行い、堅穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。なお、本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、Ⅱ層(黒褐色粘土質シルト)およびⅢ層(黄褐色粘土質シルト)は確認されなかった。

適宜、平面図・断面図(S=1/20)を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

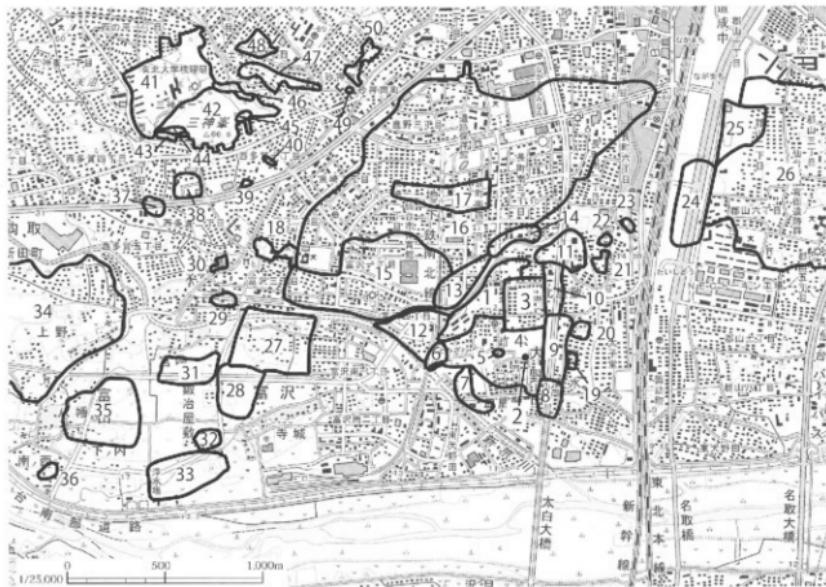
### 3 遺跡の位置と環境

六反田遺跡は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から北東約100mの地点に位置する。名取川左岸の自然堤防上に立地し、北側を笊川が曲流している。遺跡は、旧笊川の右岸に沿った東西約550m、南北約100mの範囲および、標高は約11mである。

六反田遺跡は、繩文時代から近世にかけての複合遺跡として知られている。平成6年度以降、「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う調査が継続的に実施されているが、その中で特に、奈良・平安時代の遺構、遺物が多く発見されている。堅穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、また、畑の耕作に関連すると考えられる小溝状遺構群が大規模



第1図 調査地点の位置



番号	遺跡名	性質	位置	時代	番号	遺跡名	性質	位置	時代
1	六反田遺跡	墓地跡	自然埋葬	縄文～古代、近世	24	長町駁道跡	集落跡	自然埋葬、 新耕作地	弥生～奈良
2	白居庵古墳	前方後円墳	自然埋葬	古墳中期	25	西台駁道跡	集合地 粟貯蔵	自然埋葬	銅文～古墳
3	大野田遺跡遺跡	窓跡	自然埋葬	古代	26	梅山遺跡	官吏跡・穀倉跡 寺宇跡	自然埋葬、 新耕作地	縄文～奈良(初期)
4	大野田古墳群	土壙	自然埋葬	古墳中期	27	東河原跡	城郭跡	自然埋葬	中世
5	志田社古墳	土壙	自然埋葬	古墳中期～近世	28	源治前跡	自然埋葬	平安	
6	伊古田遺跡	東向跡	自然埋葬	縄文地	29	源治前跡	城郭跡	古墳後期	
7	伊古田古跡跡	散布地	自然埋葬	古墳～古代	30	高見上ノ子遺跡	城郭跡	城郭跡	縄文、平安
8	五百軒遺跡	集落跡・屋敷跡	自然埋葬	古代～中世	31	頭原聚落遺跡	聚落跡	自然埋葬	縄文、古代
9	下ノ内遺跡跡	集落跡・屋敷跡	自然埋葬	縄文～半墳	32	御所跡遺跡跡	城郭跡	自然埋葬	古墳後期
10	大坪山遺跡	祭祀・集落跡	自然埋葬	縄文～古墳、近世	33	古木本遺跡	聚落跡	自然埋葬	古墳後期
11	汎通跡	集落跡・水田跡	自然埋葬	集落、古代～近世	34	上野跡	聚落跡	自然埋葬	縄文、古代
12	下ノ内遺跡	先秦跡	自然埋葬	縄文～後良	35	古木本遺跡	聚落跡	自然埋葬	後良～古墳
13	下ノ内遺跡跡	鳥居跡・水田跡	自然埋葬	縄文～中世	36	第六山内遺跡	聚落跡	自然埋葬	古墳後期
14	鶴見危跡	散布地	自然埋葬	古墳～古代	37	野村跡	聚落跡	自然埋葬	古代
15	山口遺跡	史跡跡・水田跡	自然埋葬、 後背堤地	縄文～中世	38	須田跡	聚落跡	自然埋葬	古墳後期～古編、平安
16	富沢遺跡	包含地・水田跡	後背堤地	無鉄器～近世	39	野東跡	聚落跡	新墳期	古墳～古墳
17	堂崎面遺跡	聚落跡・水田跡	自然埋葬、 後背堤地	縄文～古墳、平安、 近世	40	吉用山遺跡	聚落跡	自然埋葬	平安
18	宮代清水遺跡	散布地	自然埋葬	古代	41	芦ノ口遺跡	聚落跡	無鉄器	縄文～弥生、平安
19	浅間清水遺跡	散布地	自然埋葬	古代	42	二ノ内塚跡	聚落跡	無鉄器	縄文～弥生、平安
20	北原遺跡跡	散布地	自然埋葬	古代	43	古川跡	聚落跡	無鉄器	縄文～弥生、平安
21	源治跡	散布地	自然埋葬	古代	44	三ツ神古墳跡	古墳	古墳	縄文、平安
22	元町南遺跡	散布地	自然埋葬	古代	45	金之池跡	水跡	丘陵斜面	古墳土
23	元町六丁目遺跡	散布地	自然埋葬	古代	46	二ノ内軒大堂解人跡点	縄文大墓	丘陵斜面	古墳末

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

に展開することなどが明らかになっている。さらに、本遺跡と大野田古墳群、袋前遺跡にまたがる形で、方形に巡る溝跡に囲まれ、規則的に配置された大型の掘立柱建物跡が6棟発見されている。これらは古代官衙に関連する遺構とされ、平成21年7月に「大野田官衙遺跡」として新たに登録されている。

#### 4 基本層序

I 層：暗オリーブ灰色粘土質シルト(2.5GY3/1)。

盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ約10~30cmである。

IVa層：オリーブ黒色粘土質シルト(7.5Y2/2)。

厚さ10~18cmである。

IVb層：オリーブ黒色粘土質シルト(7.5Y2/2)。

黒褐色の粘土質シルトの粒を少量含む。

厚さ8~10cmである。遺構検出面である。

V 層：黒褐色粘土質シルト(10YR3/2)。

厚さ約10cmである。遺構検出面である。



第3図 調査区配置図

#### 5 発見遺構と出土遺物

豊穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。

今回の調査で検出した遺構は、すべてV層上面で検出したが、壁断面の観察により、IVb層上面からの掘り込みであることを確認した。

##### 1) 豊穴住居跡

###### S I 1 豊穴住居跡

調査区北東隅で検出した。そのほとんどが北側の調査対象地外へ延びる。小溝状造構群1を構成するSD3溝跡およびSD4溝跡と重複関係があり、いずれよりも新しい。

検出規模は、1.4m以上（東西）×0.9m以上（南北）である。平面形は、隅丸方形と推測される。堆積土は、2層に分層され、いずれも自然堆積土と考えられる。床面は、ほぼ平坦である。基本層VI層を主体とする黒褐色粘土質シルトを入れ、床としているが、調査区北壁断面の観察によると、一部、オリーブ黒色の粘土質シルトで貼床としたと考えられる。検出面から床面までの深さは40cm程度で、壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面からの深さは50cm程度である。

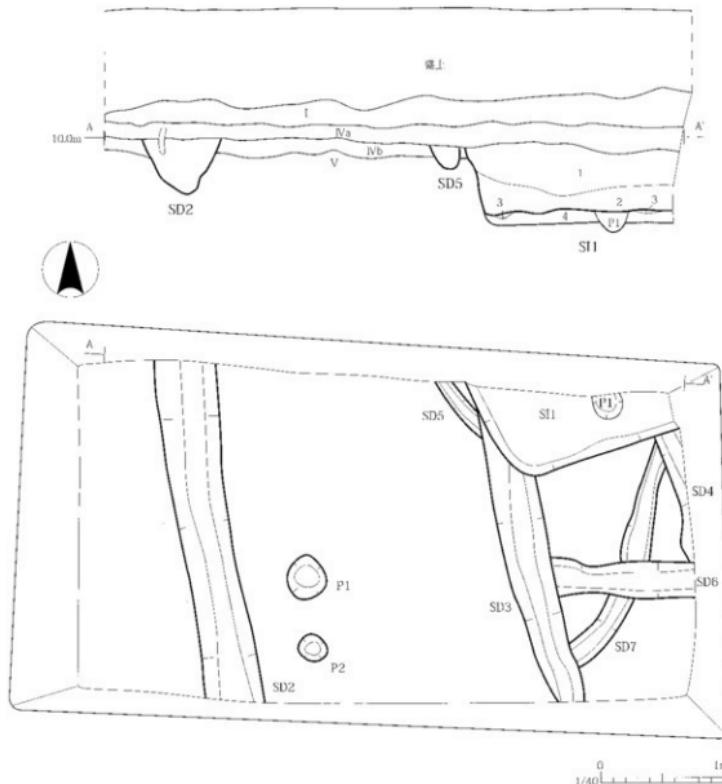
床面からピットを1基検出したが、主柱穴は確認できなかった。

遺物は、住居内堆積土1層およびピット内堆積土から出土している。住居内堆積土からは図示した土器器坏2点



調査番号	登録番号	遺跡名	出土層位	種別	高さ	法面(cm)			岩微-番号	写真 回数
						裏面	二面	正面		
1	D-1	SA1	1	土壁跡	堆	5.3	(15.2)	7.0	内面へラミガキ→塗色處理 外面:ロクロナマ 成部:白系赤色	2-1
2	D-2	SA1	1	土壁跡	堆	1.35	(12.0)	3.2	内面へラミガキ→塗色處理 外面:ロクロナマ→白系もヘタケ目:主張:白系:白目→手白いヘタケ目	2-2

第4図 S I 1 豊穴住居跡 出土遺物



箇名・測標	上色・下色	しきり	網色	深入物华	備考
I	2.5Y3/1オランバカラ地土質シルト	ややあり	ややあり	鉄物ねじロックを多く含む	雨水汎濫
IVa	7.5Y2/2オランバカラ地色粘土質シルト	ややあり	ややあり	鐵物ねじロックを多く含む	
IVb	7.5Y2/2オランバカラ地色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V網板を多く含む	
V	10Y3/2オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり		
1	5Y2/2オランバカラ地色粘土質シルト	ややあり	ややあり	鉄物ねじロックを多く含む	鉄物内埋積
2	5Y2/2オランバカラ地土質シルト	ややあり	ややあり	鐵物ねじロックを多く含む	鉄物内埋積
3	5Y2/2オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり	5Y4/2オランバカラ地色粘土質シルトの隙を多く含む	鉄物内埋積
4	2.5Y3/2オランバカラ地色粘土質シルト	ややあり	ややあり	5Y3/2オランバカラ地色粘土質シルトの隙を多く含む	鉄物内埋積
P1	7.5Y3/1オランバカラ地色粘土質シルト	あまりなし	あり		
SD2	7.5Y2/2オランバカラ地色粘土質シルト	ややあり	ややあり	7.5Y3/1オランバカラ地色粘土質シルトの隙を多く含む、鐵物ねじロックを多く含む	心臓洗浄槽
SD3	7.5Y2/2オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり	鐵物ねじロックを多く含む、V網板を多く含む	
SD4	7.5Y3/1オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり	V網板を多く含む	
SD5	10Y3/2オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり	鐵物ねじロックを多く含む	
SD6	7.5Y2/1紫紺色シルト	ややあり	ややあり		
SD7	7.5Y3/1オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり	V網板を多く含む	
P1	5Y3/1オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	従々		
P2	5Y3/1オランバカラ地内粘土質シルト	ややあり	ややあり		

(第4図-1、2)の他、上部器坏・壺片26点、須恵器壺片3点が出土している。土師器は、確認できたものはすべてロクロ調整である。ビット内堆積土からは須恵器壺片1点、土師器壺片1点が出土している。

## 2)溝跡

検出した6条の溝跡のうちSD2溝跡、SD3溝跡については、規模や方向などから小溝状遺構群の一部であると考えられる。

### 小溝状遺構群1

南北方向の遺構群である。SD2溝跡、SD3溝跡からなる。SI1堅穴住居跡、SD5~7溝跡と重複関係があり、SI1堅穴住居跡より古く、SD5~7溝跡より新しい。検出長は約2.5mである。規模は上端幅40~50cm、下端幅15~20cm、深さ25~30cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物はSD2溝跡から須恵器壺片、SD3溝跡から須恵器長頸瓶片が各1点出土している。

### SD4溝跡

東西方向の溝跡である。SI1堅穴住居跡、SD6溝跡、SD7溝跡と重複関係があり、SI1堅穴住居跡、SD6溝跡より古く、SD7溝跡より新しい。検出長は約1.1mである。規模は上端幅15cm以上、下端幅約10cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

### SD5溝跡

東西方向の溝跡である。SD3溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は約0.6mである。規模は上端幅20cm以上、下端幅約8cm以上、深さ約18cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

### SD6溝跡

東西方向の溝跡である。SD3溝跡、SD4溝跡、SD7溝跡と重複関係があり、SD3溝跡より古く、SD4溝跡、SD7溝跡より新しい。検出長は約1.2mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約15cm、深さ約9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

### SD7溝跡

北東~南西方向の溝跡である。SD3溝跡、SD4溝跡、SD6溝跡と重複関係があり、これらより古い。検出長は約1.8mである。規模は上端幅15~25cm、下端幅10~15cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

## 6 まとめ

今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、第7次調査区の西、第5次調査1C区の北西にあたる(16頁第6図参照)。

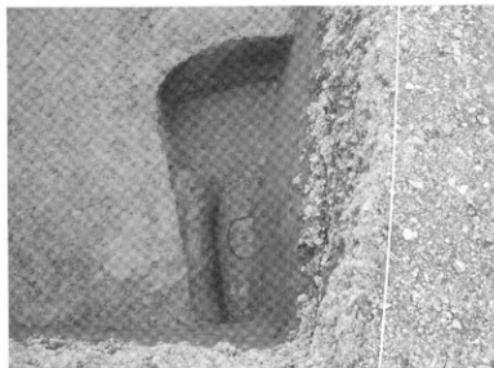
今回の調査では、堅穴住居跡1軒、溝跡6条、ビット2基を検出した。

堅穴住居跡は、床面からの遺物の出土がないため遺構の年代等の詳細は不明であるが、住居内堆積土からロクロ土師器壺が出土していることから、9世紀代には廃絶していたものと考えられる。

溝跡6条のうち2条は、周辺の調査でも検出されている、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群の一部と考えられる。その他4条の溝跡もその可能性があるが、調査区に制約があり、可能性にとどまる。



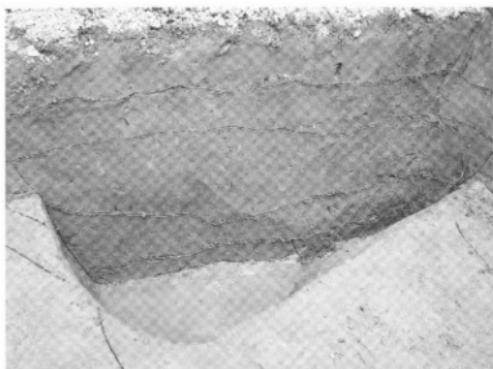
1 遺構検出状況（南東から）



2 SII型穴住居跡 床面検出状況（東から）



3 SII型穴住居跡 全景（東から）



4 S I 1 窓穴住居跡 北壁断面（南から）



5 遺構完壁状況（西から）



写真図版 2

### III 六反田遺跡第7次発掘調査報告

#### 1 調査要項

遺跡名	六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号01189）
調査地点	仙台市太白区大野田字六反田27番6、27番7、29番、35番1の各一部
調査期間	平成22年7月7日～14日
調査対象面積	79.41m <sup>2</sup>
調査面積	34m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

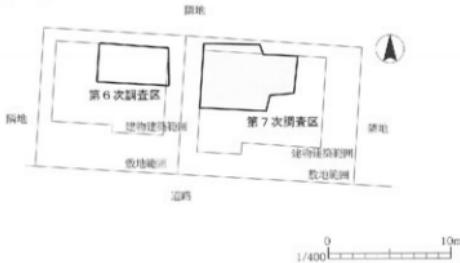
#### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年5月10日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-26号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年7月7日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北3.0m×東西8.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびI層を除去後、人力によりIV層を除去しながら、V層上面で遺構検出作業を行った。なお、本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、II層（黒褐色粘土質シルト）およびIII層（黄褐色粘土質シルト）は確認されなかった。

掘立柱建物跡（SB1）が検出されたことから、その規模を明らかにするため、7月9日に重機を用いて調査区を拡張した。また、申請者の了承を得た上で、一部建物範囲外に調査区を広げた。適宜、平面図および断面図（S=1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

#### 3 基本層序

- I 層：にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR 4/3）。  
盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ10  
～30cmである。
- IVa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。厚さ  
10～20cmである。
- IVb層：黒褐色粘土質シルト（10YR 3/2）。遺構  
検出面である。厚さ5～15cmである。
- V 層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。



第1図 調査区配置図

#### 4 発見構造と出土遺物

掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ピット15基を検出した。

今回の調査で検出した遺構は、すべてV層上面で検出したが、壁断面の観察により、IVb層上面からの掘り込みであることが確認された。

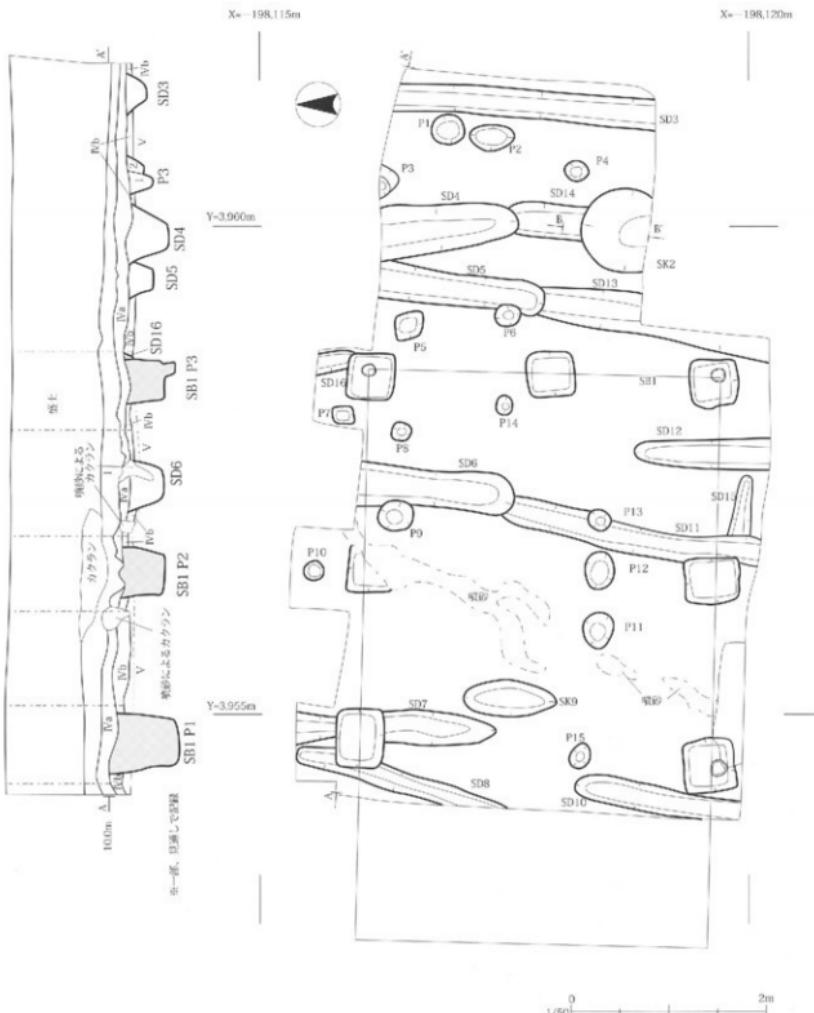
##### 1) 掘立柱建物跡

###### SB1 掘立柱建物跡

東西棟の掘立柱建物跡である。第6次調査区でこの建物跡にかかる柱穴が確認されなかったことから、桁行3間、梁行2間の建物跡であると推定される。SD7、8、11、15、16溝跡と重複し、そのいずれよりも新しい。方向は、南側柱列でみると、W-2°-Sである。建物規模は、桁行総長が約3.9m以上（推定5.85m）で、柱抜取り穴か



SK2土坑 断面図



第2図 平面・断面図

局所・標本	土色・・質	しまり	新性	出土物等	周 長	高さ
I	IOYR 4 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物の粒を比較的多く含む		
IIa	IOYR 3 / 4 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
IIb	IOYR 3 / 4 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
V	IOYR 4 / 4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SK 1	IOYR 3 / 4 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
2	IOYR 3 / 4 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SK 9	IOYR 3 / 2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 3	IOYR 2 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 4	IOYR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 5	IOYR 3 / 2 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 6	IOYR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 7	IOYR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 8	IOYR 3 / 4 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 10	IOYR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 11	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 12	IOYR 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 13	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 14	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 15	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
SD 16	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む		
試探	土色・・質	しまり	結晶	出土物等	周 長	高さ
P1	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層プロックを比較的多く含む 炭化物の粒を比較的多く含む	34 × 30	15
P2	IOYR 3 / 2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層プロックを比較的多く含む 炭化物の粒を比較的多く含む	45 × 25	16
P3	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層粘土を比較的多く含む V層粘土を比較的多く含む	(30) × (20)	12
P4	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	24 × 20	18
P5	IOYR 3 / 2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	28 × 26	23
P6	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	25 × 22	20
P7	IOYR 3 / 2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	23 × 18	13
P8	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	29 × 20	16
P9	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	あまりなし	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	36 × 30	16
P10	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	29 × 26	15
P11	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	35 × 30	30
P12	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層プロックを比較的多く含む V層粘土を比較的多く含む	40 × 35	30
P13	IOYR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層プロックを比較的多く含む	22 × 20	12
P14	IOYR 3 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粘土を比較的多く含む	21 × 17	10
P15	IOYR 3 / 2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層粘土を比較的多く含む	26 × 20	12

第1表 土層記表

ら推定した柱寸法は東から約2.0m、約1.9mである。梁行統長は3.6mで、柱間寸法は約1.8mの等間である。

掘り方の平面形は、隅丸方形である。規模は、一辺45~55cm程度で、検出面からの深さは32~45cmである。すべての柱穴に、柱抜取り穴が伴う。この柱抜取り穴は、平面および断面の形状と、遺物や炭化物などが多く含まれることから、柱抜取り穴と判断される。

掘り方埋土は、黒褐色の粘土質シルトである。柱抜取り穴の堆積土は黒褐色～暗褐色の粘土質シルトで、炭化物粒や、V層を起源とする褐色粘土質シルトを粒状もしくはブロック状に多量に含んでいる。

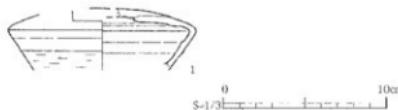
遺物は、柱抜取り穴から須恵器壺・平瓶片（第3図-1）、ロクロ調整された土師器壺・壺片が出土している。掘り方からは土師器壺・壺片がごく少量出土している。

## 2) 土坑

### SK 2 土坑

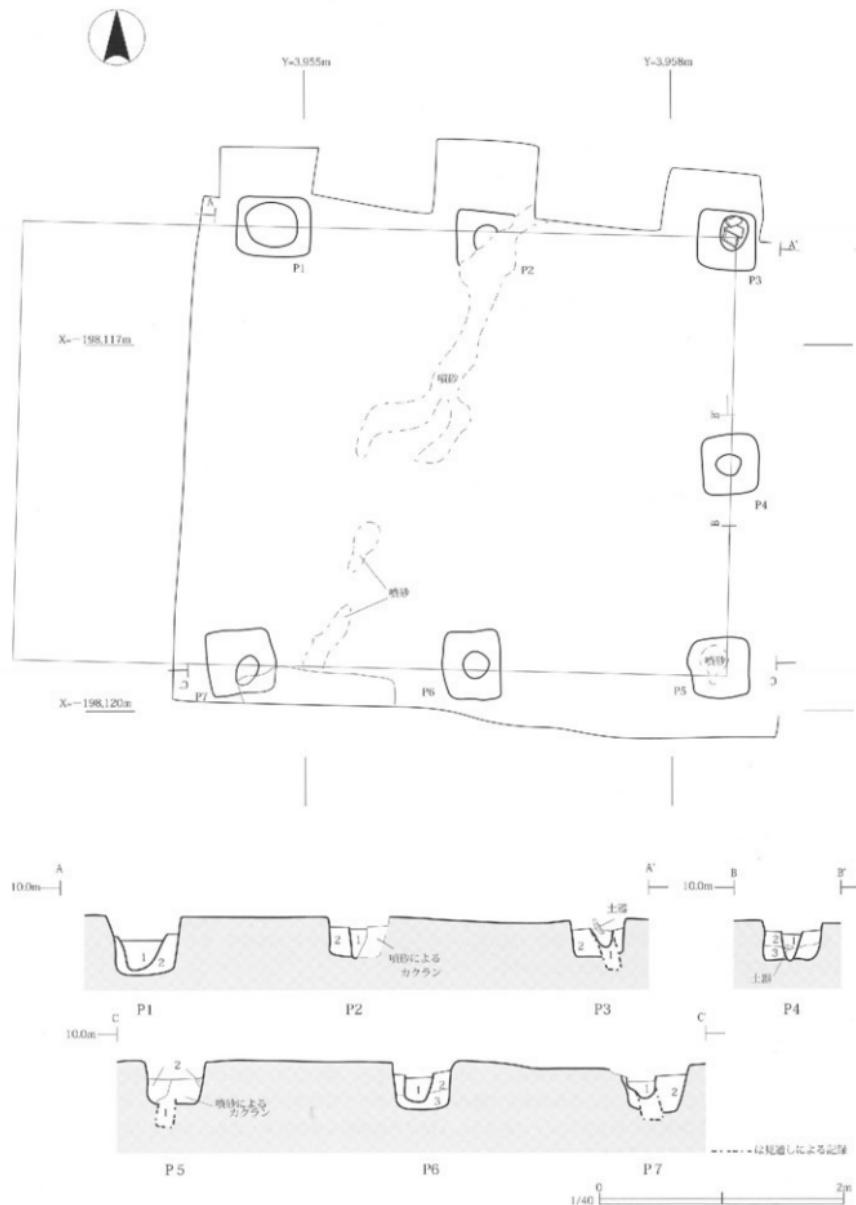
調査区東南部で検出した。SD 14講跡と重複し、これよりも新しい。平面形は、円形ないし梢円形と推測される。規模は東西85cm、南北70cm以上で、検出面からの深さは25cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、2層に分層される。ともに暗褐色の新土質シルトであるが、1層は炭化物粒を比較的多く含み、2層はV層起源の粘土質シルトを粒状～ブロック状に非常に多く含んでいる。

遺物は、1層から、土師器壺（第5図-1）、赤焼土器壺（第5図-2、3）、須恵器壺片などが出土している。土師器は、破片を含め7点出土したが、確認できるものはすべてロクロ調整である。



第3図 SK 2掘立柱建物跡出土遺物

試験番号	地名	遺物名	出土位置	種別	剖面	高さ(cm)	特徴・参考	参考
1	E-1	SII P3	1	植生部	平版(11.6)	-	平面のウナナメ 平面ガラガラ、下部薄めハツヅ	3-1



第4図 SB1 据立柱建物跡 平面・断面図

番号	場所	土色・質	土性	特徴	見人物等	機会
P1	1	10YR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙を比較的多く含む	柱抜取穴
	2	10YR 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をごく少量含む	柱取り方
P2	1	10YR 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒を少量含む	柱取り穴
	2	10YR 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		柱取り方
P3	1	10YR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物粒を多量含む	柱抜取穴
	2	10YR 2 / 3 黒褐色粘土質シルト	あり	ややあり		柱取り方
P4	1	10YR 2 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒をや多く含む、軸性は2層よりも強く、しまりは2層よりも弱い	柱抜取穴
	2	10YR 2 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をブロック状にやや多く含む。しまりは1層よりも強く、軸性は1層よりも弱い。	柱取り方
P5	1	10YR 3 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をブロック状にごく少量含む	柱抜取穴
	2	10YR 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をごく少量、炭化物をごく少含む	柱取り方
P6	1	10YR 2 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をブロック状に多量含む	柱抜取穴
	2	10YR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V縫隙ブロックを比較的多く、炭化物のブロックを多量含む	柱取り方
P7	1	10YR 2 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V縫隙をブロック状に多量、炭化物を少量、含む	柱抜取穴
	2	10YR 2 / 3 黑褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		柱取り方

第2表 SB1 振立柱建物跡 土層記表

## SK9土坑

調査区西部で検出した。他の遺構との重複はない。平面形は楕円形である。規模は長軸（南北）94cm、短軸（東西）37cmで、検出面からの深さは32cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

## 3) 溝跡

検出した13条の溝跡のうち、周辺の調査成果、各溝の方向や規模などから、SD3溝跡とSD5～7溝跡、およびSD10溝跡、SD11溝跡、SD13溝跡、SD14溝跡はそれぞれ小溝状造構群の一部と考えられるが、調査区の制約から詳細は不明である。

## SD3溝跡

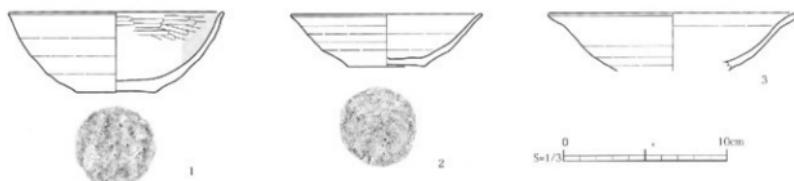
南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約2.65mである。規模は上端幅約35cm、下端幅約15cm、深さ約13cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は土師器の小片が1点出土している。

## SD4溝跡

南北方向の溝跡である。SD5溝跡、SD14溝跡と重複関係があり、これらより新しい。検出長は1.40mである。規模は上端幅約55cm、下端幅約25cm、深さ約33cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は、土師器の坏片（体部）1点・（中点）甕片（口縁部）1点、須恵器甕片（口縁部1点、体部3点）が出土し



遺物番号	位置番号	遺物名	出土層位	種別	器種	計測(cm)	参考	写真
1	D-1	SK2	1	寸幅	粘土	4.9 13.2 5.0	内面: ベラミガタ→黑色光沢 外面: ロクコナマ 底面: 防水赤絞り	3-2
2	D-2	SK2	1	寸幅	粘土	3.2 (11.8) 4.8	内面: コクロナマ 外面: コクロナマ 底面: ロクコナマ	3-3
3	D-3	SK2	1	寸幅	粘土	(2.5) (10.8) ~	内面: コクロナマ 外面: コクロナマ	-

第5図 SK2土坑 出土遺物

ている。

#### S D 5溝跡

南北方向の溝跡である。S D 4溝跡、S D 13溝跡、P 6と重複関係があり、S D 4溝跡、P 6より古く、S D 13溝跡より新しい。検出長は1.7mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約20cm、深さ約12cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は、ロクロ土師器片が1点出土している。

#### S D 6溝跡

南北方向の溝跡である。S D 11溝跡、P 9と重複関係があり、P 9より古く、S D 11溝跡より新しい。検出長は1.6mである。規模は上端幅約50cm、下端幅約25cm、深さ約19cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 7溝跡

南北方向の溝跡である。S B 1掘立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.05mである。規模は上端幅約40cm、下端幅約15cm、深さ約15cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は、須恵器環片1点、甕片（体部）3点が出土している。

#### S D 8溝跡

南北方向の溝跡である。S B 1掘立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.2mである。規模は上端幅約25cm、下端幅約10cm、深さ約4cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 10溝跡

南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は1.7mである。規模は上端幅約28cm、下端幅約15cm、深さ約10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 11溝跡

南北方向の溝跡である。S D 6溝跡、S D 15溝跡、S B 1掘立柱建物跡、P 13と重複関係があり、S D 6溝跡、P 13、S B 1掘立柱建物跡より古く、S D 15溝跡より新しい。検出長は2.6mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約15cm、深さ約13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 12溝跡

南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は1.4mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約18cm、深さ約9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 13溝跡

南北方向の溝跡である。S D 5溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.4mである。規模は上端幅約40cm、下端幅約18cm、深さ約13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D14溝跡

南北方向の溝跡である。SK 2 土坑、SD 4 溝跡と重複関係があり、これらより古い。検出長は0.7mである。規模は上端幅約35cm、下端幅約20cm、深さ約11cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D15溝跡

東西方向の溝跡である。SD 11 溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は0.9mである。規模は上端幅約22cm、下端幅約10cm、深さ約3cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D16溝跡

南北方向の溝跡である。SB 1 挖立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は0.4mである。規模は上端幅約18cm、下端幅約10cm、深さ約8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

### 4) ピット

15基検出したが、建物を構成するようなピットや、有意な配列のピットは検出されなかった。各ピットの規模等および堆積土は第1表のとおりである。

遺物は、P 7 から須恵器甕の小片が1点出土している。

### 5 まとめ

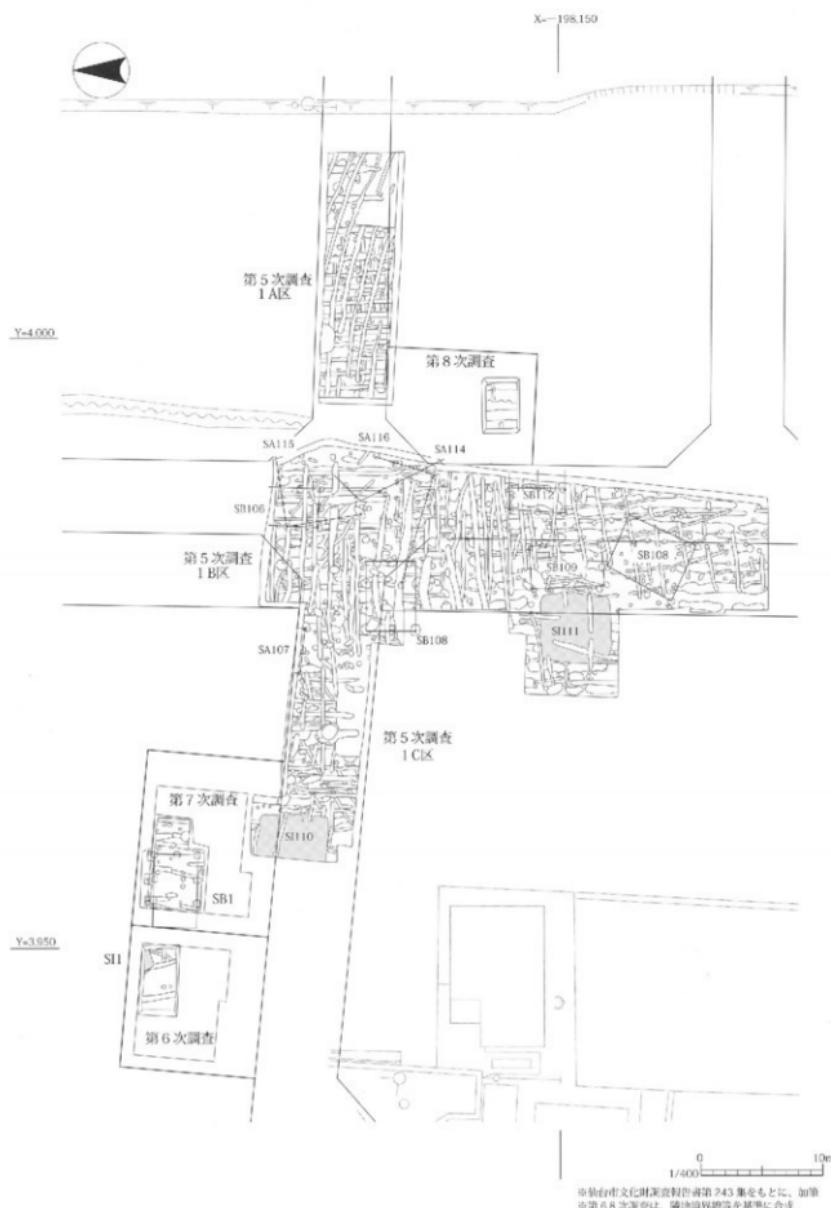
今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、第6次調査区の東、第5次調査1C区の北にあたる（16頁第6図参照）。

今回の調査では、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ピット15基を検出した。

掘立柱建物跡は、柱抜取り穴から、ロクロ土師器壺などが出土していることから、9世紀以降に廃絶したものと考えられる。P 3抜取り穴出土の須恵器平瓶は、胴部推定復元径11.5cm、現存器高3.7cmの小型品である。平瓶の時期については不詳であり、また、掘立柱建物跡の時期を示すものではないが、大野田官衙廃絶後の土地利用に関わる資料であろう。

SK 2 土坑からは、ロクロ土師器壺、須恵器甕のほか赤燒土器壺が出土しており、概ね10世紀代に属するものと考えられる。

溝跡については、周辺の調査でも検出されている、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群の一部と考えられるが、調査区に制約があり、詳細は不明である。



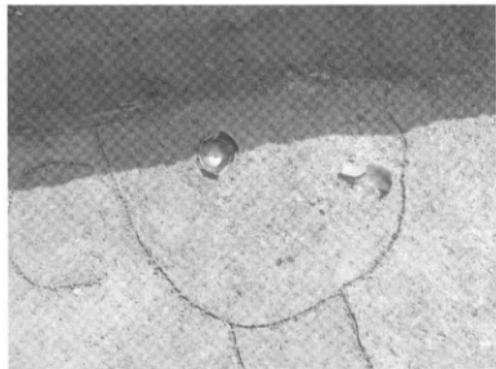
第6図 調査区と今回調査区



1 遺構検出状況（拡張前）（東から）

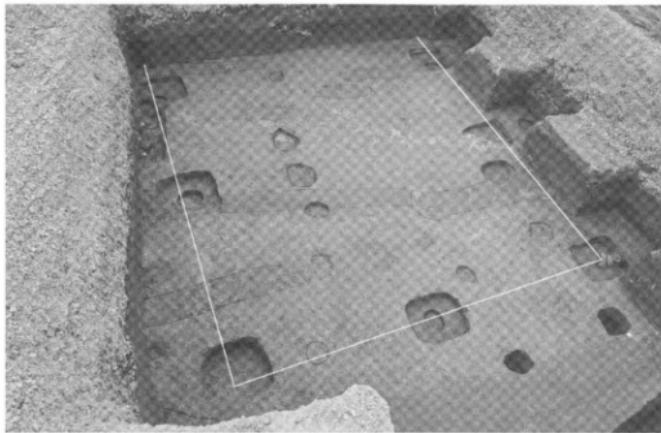


2 遺構完掘状況（東から）

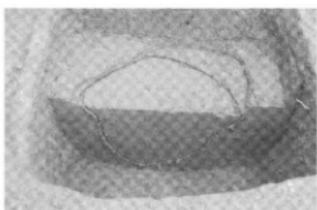


3 SK2 土坑検出状況（北から）

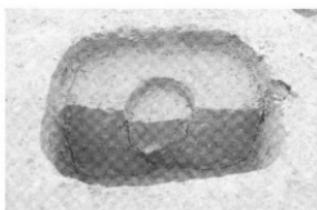
写真図版 1



4 SB1 挖立柱建物跡全景（東から）



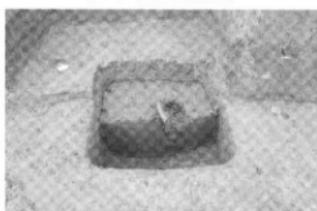
5 P1断面（南から）



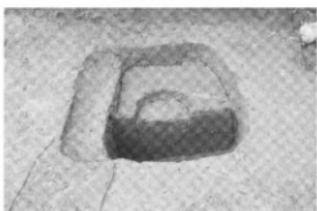
6 P4断面（東から）



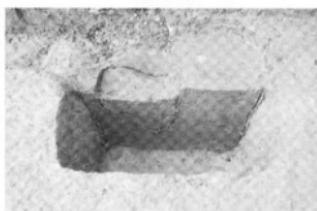
7 P3遺物出土状況（南から）



8 P3断面（南から）



9 P6断面（北から）

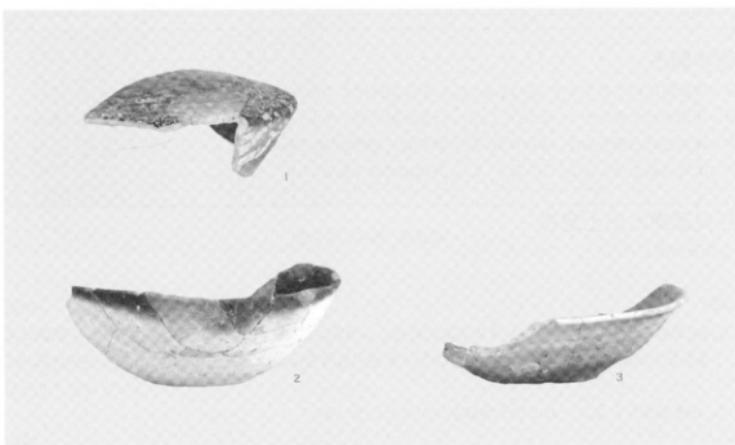


10 P7断面（南から）

写真図版2



11 北壁断面（南西から）



出土遺物

## IV 六反田遺跡第8次発掘調査報告

### 1 調査要項

遺跡名 六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号01189）

調査地点 太白区大野田宮沢駅周辺地区園整理事業地内6-1街区

調査期間 平成22年9月6日～10日

調査対象面積 47.2m<sup>2</sup>

調査面積 15m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅建築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係

担当職員 主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘



第1図 調査区配置図

### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年6月25日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条発掘届（H22教文第114-61号で回答）に基づき実施した。確認調査は平成22年9月6日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。建設範囲内に、南北3.0m×東西5.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびI層を除去後、人力によりIV層を掘り下げ、V層上面で遺構検出作業を行い、溝跡5条を検出した。本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、II層（黒褐色粘土質シルト）およびIII層（黄褐色粘土質シルト）は確認されなかった。適宜、平面・断面図（1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

### 3 基本層序

I a層：暗灰黄色粘土質シルト（2.5Y 4/2）。旧水田耕作土である。厚さ10～30cmである。

I b層：黒褐色粘土質シルト（2.5Y 3/2）。旧水田耕作土である。厚さ10cm程度で、下面に凹凸がある。

IV層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ15～30cm程度である。

V層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。遺構検出面である。

### 4 発見遺構と出土遺物

溝跡5条を検出した。

#### SD 1溝跡

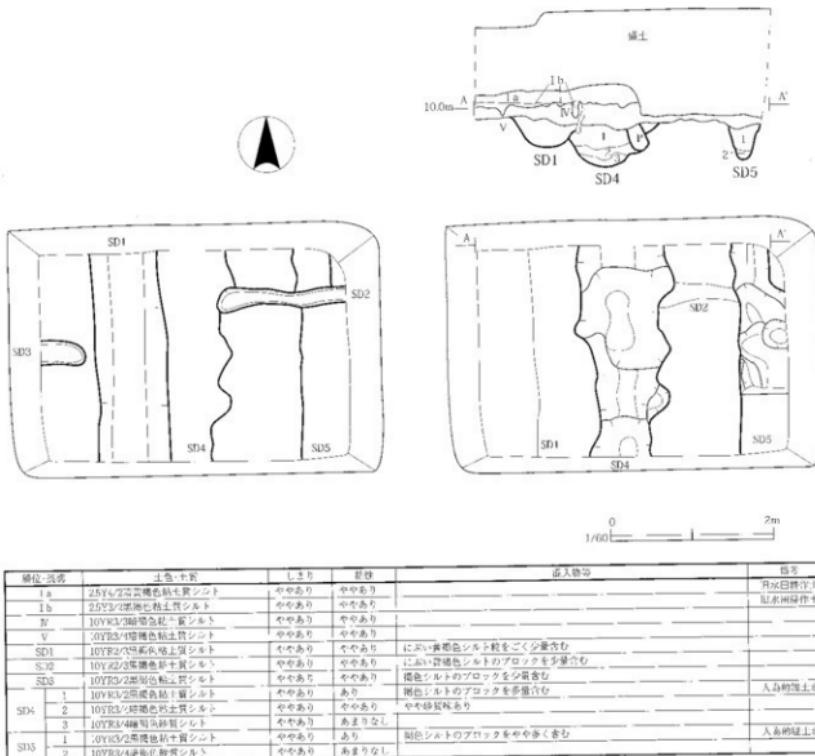
南北方向の溝跡である。SD 4溝跡と重複関係があり、これよりも新しい。検出長は2.6mである。規模は上端幅約80cm、下端幅約40cm、深さ約35cmを測り、断面形は半円形を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は、須恵器裏片、蓋片、および土師器小片が出土している。

#### SD 2溝跡

東西方向の溝跡である。SD 4溝跡、SD 5溝跡と重複関係があり、これらよりも新しい。検出長は1.6mである。規模は上端幅約20cm、下端幅約15cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅いV字状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。



第2図 平面・断面図

### S D 3溝跡

東西方向の溝跡である。他の遺構との重複関係はない。検出長は0.6mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約20cm、深さ約8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。  
遺物は出土していない。

### S D 4溝跡

南北方向の溝跡である。S D 1溝跡、S D 2溝跡と重複関係があり、これらよりも古い。検出長は2.6mである。規模は上端幅60~120cm、下端幅20~60cm、深さ42~62cm程度である。底面にかなりの凹凸がある。堆積土は3層に細別され、第1層は褐色シルトのブロックを多量に含む暗褐色の粘土質シルトであり、人為的埋土とみられる。  
遺物は出土していない。

### S D 5溝跡

南北方向の溝跡である。S D 2溝跡と重複関係があり、これよりも古い。検出長は2.6mである。上端幅60cm以上、

下端幅10~60cm、深さ40~63cm程度である。底面にかなりの凹凸がある。堆積土は2層に細別され、第1層は褐色シルトのブロックをやや多く含む黒褐色の粘土質シルトであり、人為的堆土と見られる。

遺物は、土器器小片が1点出土している。

## 5 まとめ

今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、平成9年度における既調査部分（第5次調査1A区、1B区）の南東にあたる（16頁第6図参照）。

調査区に制約があるため、詳細は不明であるが、SD1溝跡～SD3溝跡については、その規模や規則性などから、周辺の調査でも広く検出され、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群として認識されているもの一部と考えられる。

一方、SD4溝跡およびSD5溝跡については、規模や形態、堆積土の状況など一般的な小溝状遺構群とは異なる。第5次調査1B区の南側で検出された11号小溝状遺構群は、規模も大きく、底面の凹凸が著しいという特徴を有しており、今回検出した溝跡と似た特徴を持つ。11号小溝状遺構群については、他の小溝状遺構群と規模や形態などに違いがあり、性格についても判明しないことから、類例が増えるのを持ち、名称を含めた再検討の必要性が指摘されている（註）。今回検出されたSD4溝跡およびSD5溝跡の性格等についても、今後の検討課題である。

参考文献  
仙台市教育委員会2000『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡－仙台市宮沢駅周辺区域整理事業関係遺跡発掘調査報告書』一  
仙台市文化財調査報告書第243集 333、363頁



1 遺構検出状況（東から）



2 遺構完掘状況（東南から）

写真図版1

## V 烏居塚古墳第3次発掘調査報告

## 1 調查要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡登録番号01322）
調査地点	仙台市太白区大野田字王ノ槇1-1、1-2の各一部
調査期間	平成22年6月7日～9日
調査対象面積	74.61m <sup>2</sup>
調査面積	22m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

## 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年4月19日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（II22教文第114-15号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年6月7日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に南北6.3m×東西3.5mの調査区を設定した。重機により、盛土および1・2層を除去後、3層上面で、遺構検出作業を行い、ピット2基を検出し、精査を行った。引き続き、遺構の有無を確認しながらV層上面まで掘り下げを行い、古墳削溝、ピット、溝跡を検出した。

適宜、平面・断面図（S=1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。



第1図 調査地点の位置

### 3 遺跡の位置と環境

鳥居塚古墳は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から南東約500mの地点に位置する。名取川左岸の自然堤防上に立地している。

鳥居塚古墳の西方約100mには、市内最大級の円墳である春日社古墳、東方約130mには王ノ塙古墳、また周囲には中小規模の円墳が群集している。

本古墳は、これまでに2次の調査が実施されている（第1次：昭和52年の市道延伸に伴う調査、第2次：平成8、9年度「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う調査）。第2次調査において、前方後円墳であることが判明した。また、第1次調査で墳丘積土を部分的に確認しているが、第2次調査では確認されていない。出土遺物は、円筒埴輪、朝顔形埴輪片（2点）や形象埴輪片（1点）の他、縄文土器や土師器、須恵器、石器などがある。

### 4 基本層序

I 層：灰色粘土質シルト（5YR 5/1）。盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ10~15cm程度である。

II 層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/2）。マンガン粒を多量含み、酸化鉄がやや多く沈着している。厚さ5~10cm程度である。

IIIa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。砂質味が強く、灰白色火山灰の粒を少量含む。ビット2基の検出面である。厚さ20~30cm程度である。

IIIb層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ15~30cm程度である。

IV 層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/3）。厚さ20cm程度である。

V 層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。古墳周溝、ビット、溝跡の検出面である。

VI 層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。

### 5 発見遺構と出土遺物

III層およびV層上面で、遺構を検出した。III層上面ではビット2基、V層上面では鳥居塚古墳の周溝の一部と、溝跡2条、ビット1基を検出している。

遺物は、III層から土師器片が1点出土しているのみである。

#### 1) 鳥居塚古墳周溝

溝をV層端で検出された。検出長は約2.9mである。規模は、上端幅2.6m以上、下端幅1.2m以上、深さ約50cmである。平面形は緩やかな弧状を呈する。周溝の壁は、底面から緩やかに立ち上がる。

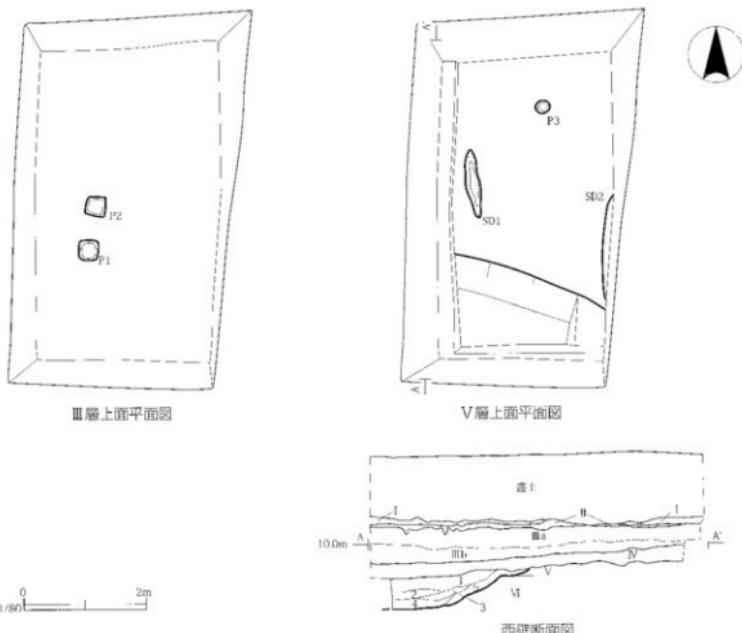
堆積土は、暗褐色～黒褐色の粘土質シルトであり、5層に組分される。いずれも自然堆積土である。

#### 2) 溝跡

S D 1溝跡は、南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は、約1.1mである。規模は上端幅24cm、下端幅14cm、深さ8cmである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、褐色シルトのブロックを多量に含む暗褐色粘土質シルトである。S D 2溝跡は南北方向の溝跡であるが、ごく一部の検出であったため、詳細については不明である。



第2図 調査区配図



番号・堆積	土名・土質	しまり	粘性	遺物	名号
I	5Y85/1灰褐色地上質シルト	ややあり	ややあり	マンガン鉱を多量含み、酸化鉄やや多く混在する。	旧水田耕作上。
II	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多い、黄白色大山川の泥を少量含む。	
II-a	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多い、黄白色大山川の泥を少量含む。	
II-b	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	直角より斜面付近。	
IV	10Y32/3石垣地土質シルト	ややあり	ややあり		
V	10Y32/4砂礫地土質シルト	ややあり	ややあり		
VI	10YR2/10褐色地土質シルト	ややあり	ややあり		
VII	10YR2/10褐色地土質シルト	ややあり	ややあり		
P1	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色~灰褐色色シルトをブリック状にやや多く含む。	
P2	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色~灰褐色色シルトをブリック状に多く含む。	
P3	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄の粒を多く含む。	小構造遺跡
SD1	10YR2/4褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブリックを多量含む。	
SD2	10YR2/4褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブリックを多量含む。	
1	10Y32/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり		
2	10YR2/2褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	酸性土層より高い、酸化鉄の粒を多く含む。	
3	10YR2/4褐色地土質シルト	ややあり	ややあり		瓦礫堆积上。
4	10YR2/3褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄の粒を多く含む。	
5	10YR2/4褐色地土質シルト	ややあり	ややあり	岩(?)片付。	

第3図 平面・断面図

### 3) ピット

Ⅲ層上面で2基、V層上面で1基検出したが、いずれも柱痕跡等は確認されなかった。遺物は出土していない。

## 6 まとめ

今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝、溝跡、ピットを検出した。

鳥居塚古墳の周溝については、位置から、後円部北側の周溝（外縁）と考えられる。

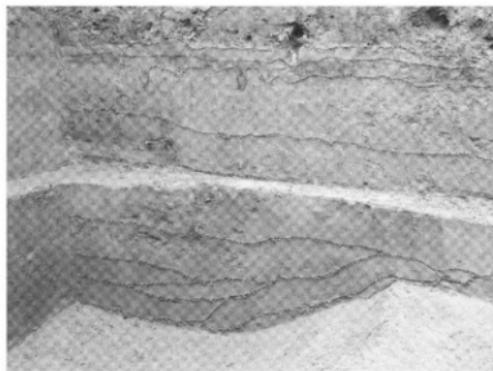
溝跡については、古代の畑耕作に関わる小溝状構造群の一部である可能性がある。



1 V層上面溝構換出状況（北から）



2 周溝完掘状況（東から）



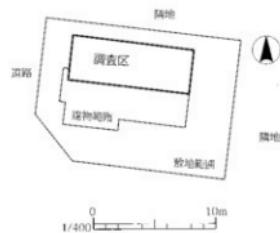
3 西壁断面（東から）

写真図版 1

## VI 鳥居塚古墳第4次発掘調査報告

### 1 調査要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡登録番号01322）
調査地点	仙台市太白区大野田字宮15番4
調査期間	平成22年9月6日～13日
調査対象面積	69.224m <sup>2</sup>
調査面積	40m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 猪狩俊哉 文化財教諭 吉野 信



第1図 調査区配置図

### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年7月20日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（II22教生文第114-88号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年9月6日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北4.0m×東西10.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびI・II層を除去後、人力によりIII・IV層を掘下げ、V層上面で遺構検出作業を行い、鳥居塚古墳の周溝を検出した。なお、調査区の北東部と南西部は既調査部分と重複していた。

適宜、平面図・断面図 (S=1/20, 1/40, 1/100) を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

### 3 基本層序

- I 層：褐色粘土質シルト (10YR 4/4)。底土直下の旧水田耕作土である。厚さ15～20cm程度である。
- II 層：暗褐色粘土質シルト (10YR 3/3)。厚さ20cm程度である。
- IIIa層：黄褐色砂質シルト (10YR 5/6)。厚さ5～15cm程度である。
- IIIb層：褐色砂質シルト (7.5YR 4/3)。厚さ10～20cm程度である。
- IIIc層：灰褐色砂質シルト (7.5YR 4/2)。厚さ5～30cm程度である。
- IIId層：灰褐色砂質シルト (7.5YR 4/2)。厚さ20～30cm程度である。
- IV 層：暗褐色粘土質シルト (10YR 3/3)。厚さ20cm程度である。
- V 層：にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR 4/3)。遺構の検出面である。
- VI 層：褐色粘土質シルト (10YR 4/4)。

### 4 発見構造と出土遺物

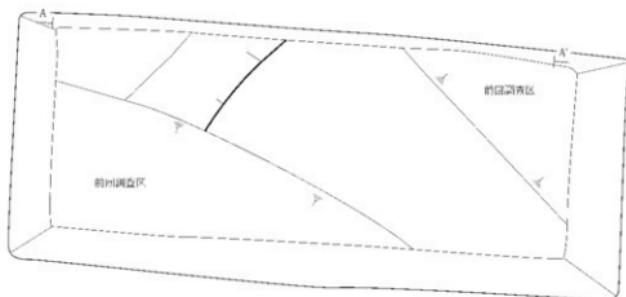
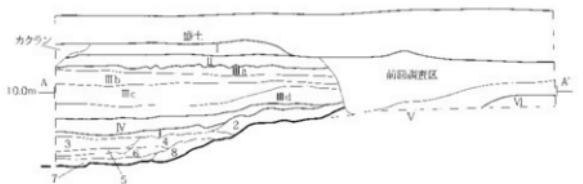
#### 鳥居塚古墳周溝

調査区西側で検出された。検出長は約2.0mである。規模は、上端幅2.8m以上、下端幅1.4m以上、深さ約70cmである。内縁の壁は、底面からやや急角度をもって立ち上がる。堆積土は、暗褐色～黒褐色の粘土質シルトの8層に細分され、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物は、埴輪片（基底部、第3図-1）、埴輪小片（1点）が出土している。

### 5 まとめ

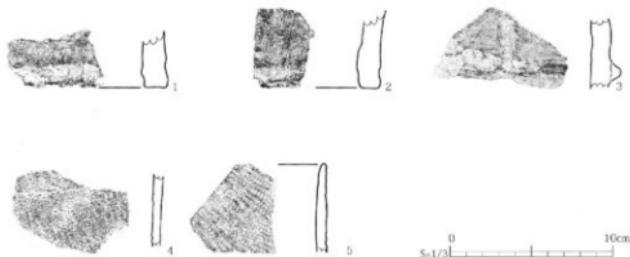
今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝を検出した。検出位置から、後円部北西側の周溝（内縁）と考えられる。また、基本層などから繩文土器が出土し、周辺に分布する繩文時代の遺跡からの流入等が想定される。



1/800 0 2m

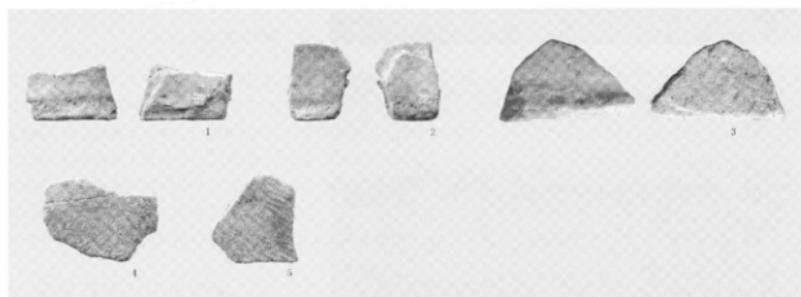
層位・地相	土色・質感	しまり	網目	侵入物等	備考
I	10YR 4/4 黄褐色粘土質シルト	あり	あり	透灰に鉱化跡を含む	伊勢田調査区
II	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	あり	あり		
IIIa	10YR 5/6 黄褐色粘土質シルト	あり	ややあり	下部に灰褐色火山灰を含む	
IIIb	7.5YR 4/3 暗褐色粘土質シルト	あり	ややあり	全体に灰褐色火山灰を含む	
IIIc	7.5YR 4/2 暗褐色粘土質シルト	あり	ややあり	まばらに細土を含む	
IIId	7.5YR 4/2 暗褐色粘土質シルト	あり	あり	下部に灰褐色火山灰を含む	
IV	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	あり	あり	底面に円凸あり	
V	10YR 4/3 にかい黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり		
VI	10YR 4/4 黄褐色粘土質シルト	ややあり	なし		
1	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり		
2	7.5YR 3/2 黑褐色粘土質シルト	ややあり	あり	にかい岩塊の跡がよばらに残る	
3	7.5YR 3/1 黑褐色砂上層シルト	なし	あり	・特に炭化物、粉を含む ・炭化物を含む	
4	7.5YR 3/1 黑褐色粘土質シルト	弱い	あり	炭化物を含む	
5	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	砂、炭化物を少量含む	伊勢田調査区
6	10YR 4/3 にかい黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色粘土ブロックを少量化む	
7	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色砂を含む	
8	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色粘土ブロックを認めた	

第2図 平面・断面図



図中 番号	登記 番号	出土部位	種別	留種	法量			特徴・備考	写真 回数
					高さ	口径	底残		
1	S-1	瓦砾	埴輪	内黄釉陶(右部)	-	-	-	内黄テテバケ	1
2	S-2	タクラン	埴輪	内黄釉陶(右部)	-	-	-	内黄テサエ、外面:タチハケ	2
3	S-3	タクラン	埴輪	内黄釉陶(空筒部)	-	-	-	内黄テテバケ	3
4	A-1	東-V層	調文土器	鉢	-	-	-	内黄テテバケ	4
5	A-2	カクラン	調文土器	鉢	-	-	-	内黄テガタ、外面:粗筋網文(RL)	5

第3図 出土遺物



出土遺物

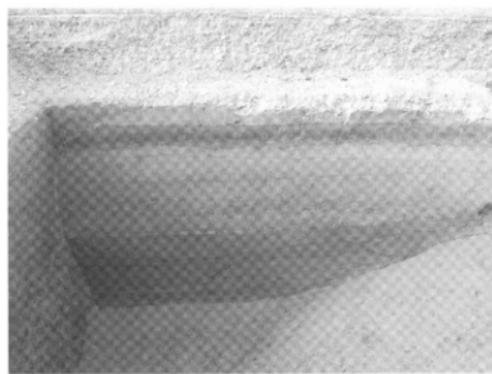
写真図版 1



1 遺構検出状況（北から）



2 遺構完掘状況（東から）



3 北壁断面（南から）

写真図版 2

## VII 鳥居塚古墳第5次発掘調査報告

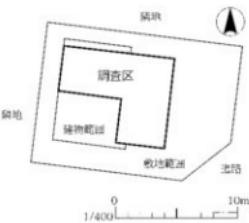
### 1 調査要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡番号01322）
調査地点	仙台市太白区人野田字王ノ植1-1、4、5、22-1、3、宇宮23-1、2、3、道路、水路、堤の各一部
調査期間	平成22年9月13日～17日
調査対象面積	72.51m <sup>2</sup>
調査面積	42.5m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 猪狩俊哉 文化財教諭 吉野 健

### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年8月18日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-121号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年9月13日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、L字形の調査区を設定した。重機により盛土およびI・II層を除去後、遺構の有無を確認しながら人力によりIII～IV層を掘下げ、V層上面で遺構検出作業を行い、鳥居塚古墳の周溝とピット5基を検出した。

適宜、平面・断面図（S=1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。



第1図 調査区配置図

### 3 基本層序

- I 層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。旧耕作土か。厚さ10～20cm程度である。
- II 層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。調査区南側で確認した。
- IIIa層：黄褐色砂質シルト（10YR 5/6）。厚さ15cm程度である。
- IIIb層：褐色砂質シルト（7.5YR 4/3）。厚さ15～30cm程度である。
- IVa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ20cm程度である。
- IVb層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/3）。厚さ20cm程度である。
- IVc層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。
- V 層：にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR 4/3）。遺構検出面である。

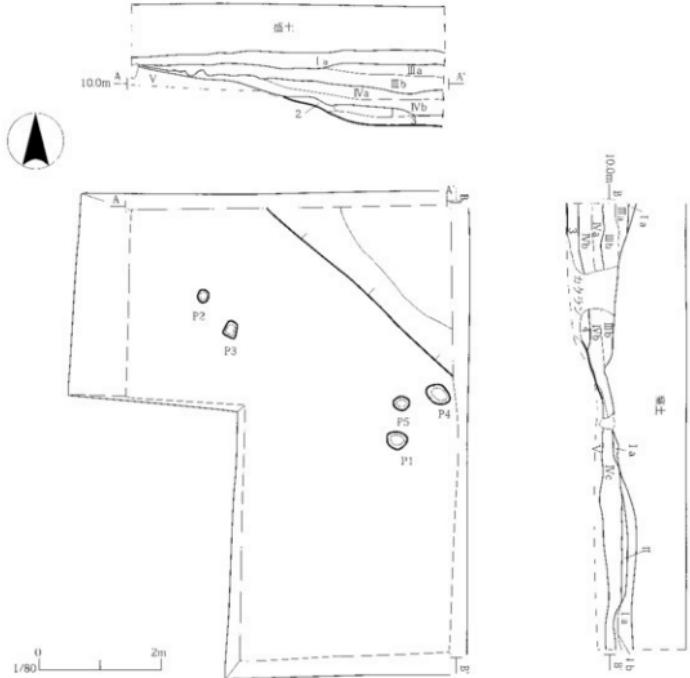
### 4 発見遺構と出土遺物

V層上面で、鳥居塚古墳の周溝とピット2基を検出した。

#### 1) 鳥居塚古墳周溝

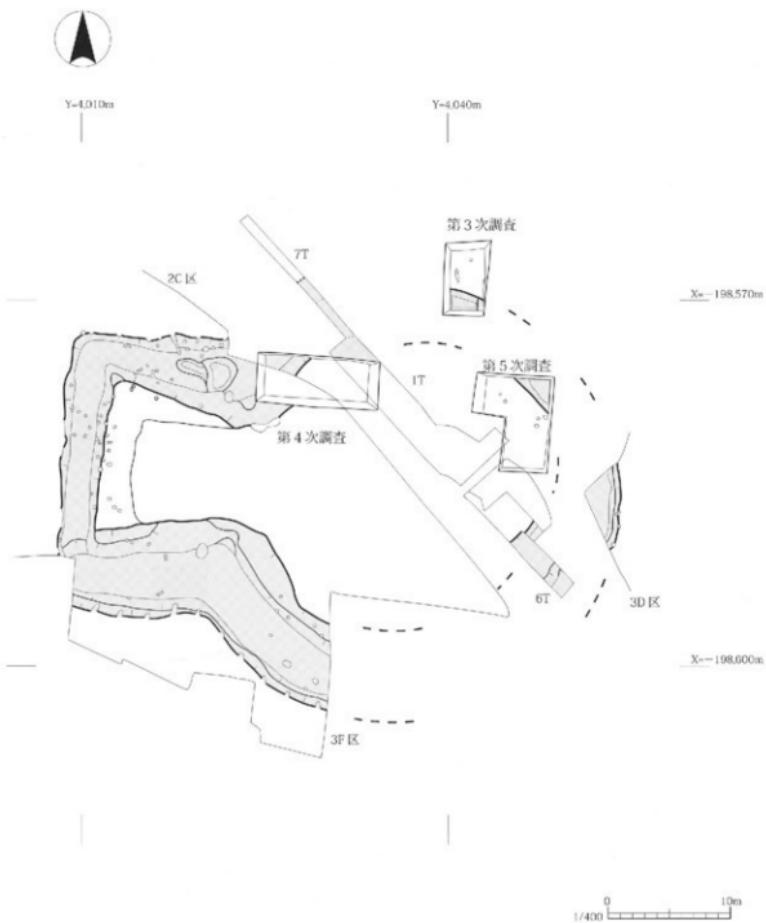
調査区北東端部で検出された。検出長は約4.2mである。規模は、上端幅2m以上、下端幅1.4m以上、深さ約60cmである。内縁の質は、底面からやや急角度をもって立ち上がる。周溝内には、基本層IVa・IVb層が堆積し、それより下位の堆積土は暗褐色～黒褐色の粘土質シルトの4層に細分され、いずれも自然堆積土と考えられる。

遺物は、堆積土から埴輪片が1点出土した（第4図）。



部位・属性	一色・ナノ	I. 置き	転体	運搬人物等	備考
I	10Y26-64胸配色・真ショル	あり	あり	運搬に搬出袋を今し	日野作七
II	10Y26-36腰配色・真ショルト	あり	あり		
IIIa	10Y26-36腰配色・真ショルト	あり	ややあり	仙台に灰白火矢(民衆)を含む	4次承認 仙台市に対応
IIIb	7.5YS2-36腰配色・真ショルト	あり	あり	全件に灰白火矢(民衆)を含む	4次承認 仙台市に対応
IVa	10Y26-36腰配色・真ショルト	あり	あり		
IVb	10Y26-36腰配色・真ショルト	ややあり	ややあり	成田に回しあり	4次承認 成田市に対応
V	10Y26-36腰配色・真ショルト	あり	あり		
六脚前脚	1 7.5YS2-26腰配色・真ショルト	あり	あり	及腰掛袋をまばらに今し	横浜港上
	2 10Y26-48腰配色・上肩ルート	あり	あり	V型袋を多量今し	
	3 7.5YS2-36腰配色・真ショルト	ややあり	あり	グラウドする	
	4 7.5YS2-36腰配色・真ショルト	ややあり	あり	成化袋を搬出含む	
	P1	10Y26-48腰配色・真ショルト	あり	V型ブロッカを斜面荷物	
P2	10Y26-48腰配色・真ショルト	あり	あり	V型ブロッカを下へむ	
P3	10Y26-48腰配色・真ショルト	あり	あり	V型ブロッカを水平荷物	
P4	10Y26-48腰配色・真ショルト	あり	あり	V型ブロッカを斜面荷物	
P5	10Y26-48腰配色・真ショルト	あり	あり	V型ブロッカを下へむ	

## 第2図 平面・断面図



※仙台市文化財調査報告書第243集を基に、合成、加筆  
第3図 既調査区と今回調査区

## 2) ピット

5基検出した。柱痕跡等は確認されず、建物を構成するようなピットや、有意な配列のピットは検出されなかった。平面形は円形、楕円形、不整形である。規模は、直径20~40cmで、検出面からの深さは12~26cmである。堆積土は単層で、暗褐色粘土質シルトを主体とし、にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含んでいる。

遺物は出土していない。

## 5まとめ

今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝を検出した。

検出位置から、後円部北東側の周溝（内縁）と考えられる。

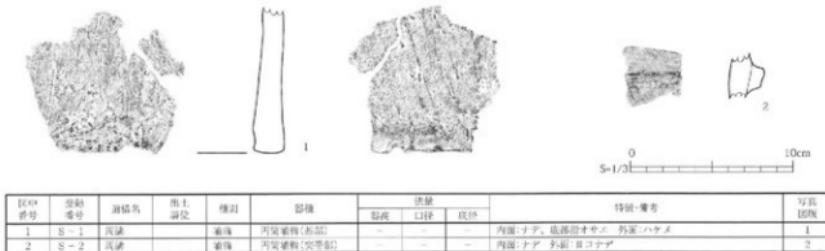
## 6 第3~5次調査の成果

今回の3次にわたる調査地点は、鳥居塚古墳の後円部にあたる。各調査で、周溝の一部を検出した。

第1、2次調査では、後円部については主に周溝の南側の検出であったが、今回は後円部の北東・北・北西部の周溝を検出し、調査した。

今回の調査と既往調査の成果<sup>(6)</sup>をあわせると、第3図とのおりとなる。今回の調査では、平面図は、隣地境界線等を基準に作製し、国家座標を基準とした計測は行っていないが、前方後円墳である鳥居塚古墳の合成図面上の全長は周溝外縁で45.6m、後円部外縁径は36.0mである。また、推定される周溝内縁の全長は37.5m前後となる。

※ 仙台市教育委員会1987『大野田古墳群 春日社古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第108集  
仙台市教育委員会2000『大野田古墳群・玉ノ塙遺跡・六反田遺跡・仙台市宮沢駅周辺区画整理事業関係発掘発掘調査報告書Ⅰ』  
仙台市文化財調査報告書第243集



第4図 出土遺物



出土遺物

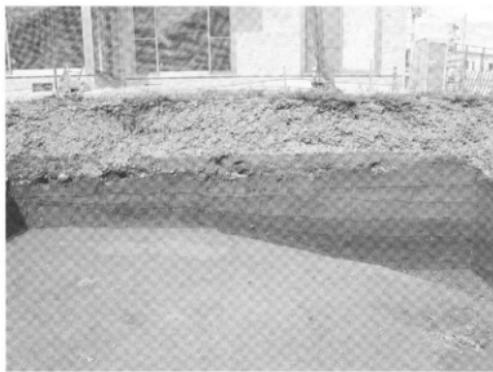
写真図版1



1 漢溝横出状況（南から）



2 周溝完掘状況（南から）



3 北壁断面（南から）

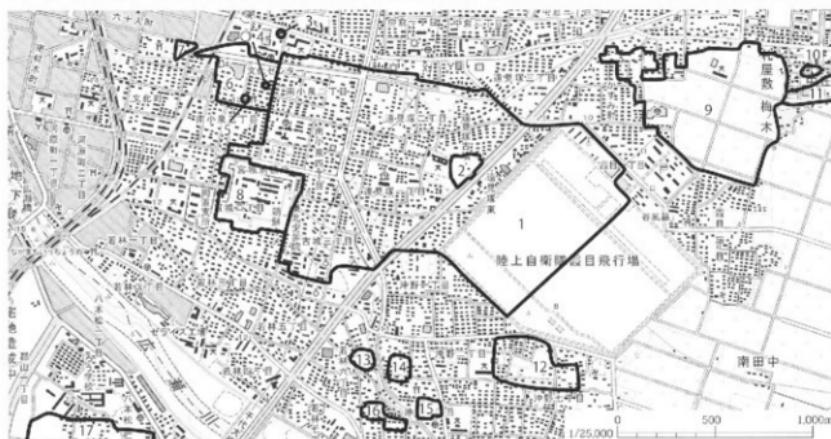
## VIII 南小泉遺跡第64次発掘調査報告

### 1 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号01021）
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目37-8
調査期間	平成22年10月18~19日
調査対象面積	72.5m <sup>2</sup>
調査面積	24m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 岸瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

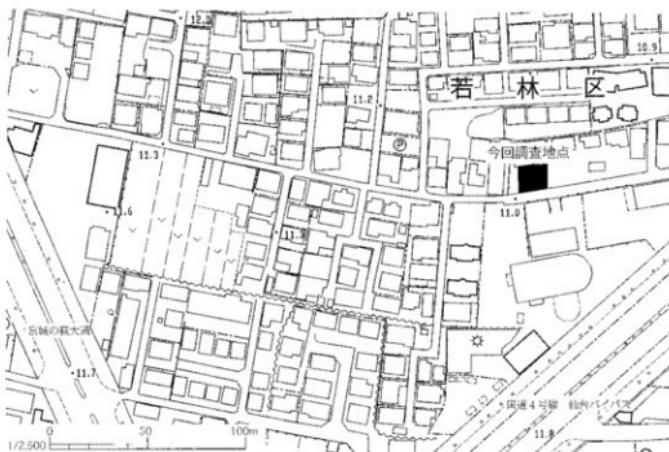
### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年9月27日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「雅藏文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条発掘届（H22教生文第114~159号で回答）に基づき実施した。確認調査は平



番号	遺跡名	性別	立場	時代
1	南小泉遺跡	生姦跡・屋敷跡	自然埋葬	縄文~近世
2	遠見塚古墳	前方後方墳	自然埋葬	古墳(式期)
3	遠見塚古墳	円墳	自然埋葬	古墳(古末期)
4	船形古墳	円墳?	自然埋葬	古墳(後期)
5	船形古墳	円墳?	自然埋葬	古墳(後期)
6	多角形古墳	城壁跡	自然埋葬	古代、中世、近世
7	青森院宝篋印	山頂跡	自然埋葬	古代、中世、近世
8	利根城跡	城跡跡・円墳・集落跡	自然埋葬	古墳、平安~近世
9	利根軍事要塞跡	鳥居跡	戦闘遺跡	古代
10	中央家造跡	瓦窯跡	戦闘遺跡	不明
11	中央家生田跡	生糞跡・廻用廻	自然埋葬	古~中世
12	神明社跡	城壁跡	自然埋葬	古墳
13	御井1号跡	設石跡	自然埋葬	古墳、古代
14	井鹽造跡	官営鹽場	自然埋葬	古代
15	中鹽井造跡	設石跡	自然埋葬	古~古墳、古代
16	利井2号跡	設石跡	自然埋葬	古墳、古代
17	利井3号跡	豆撒跡・寺跡跡・包装糞	自然埋葬・礎・廻用廻・古墳(式期)・包装(初期)	縄文~中世、近世、古墳(式期)、包装(初期)

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 調査地点の位置

成22年10月18日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。建築範囲内に、南北3.0m×東西8.0mの調査区を設定した。重機により盛上およびI層を除去後、II層上面で遺構検出作業を行い、溝跡2条、ピット1基を検出した。適宜、平面・断面図（1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

### 3 遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、仙台市の東部、JR仙台駅から東南約3.5kmの地点に位置する。広瀬川と名取川の合流地点より北へ約3kmの場所にあり、「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野の自然堤防上に立地する。標高は、遺跡西側で約13m、東側で約7.5mの西高東低の地形である。

遺跡の範囲は、東西約2km、南北約1kmに及んでおり、仙台市内でも最大級の規模を持つ遺跡である。遺跡内には塩見塚古墳を含み、また、南西部では若林城跡、北西部で養種園遺跡と接している。周辺には法領塚古墳、蛇塚古墳、猫塚古墳などが分布している。

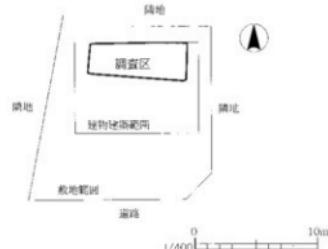
本遺跡は、これまでに63次の調査が実施されており、绳文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に、古墳時代中期（南小泉式ないし引田式期）では、60軒以上の竪穴住居跡の検出例があり、カマドが設けられた住居跡の他、カマドを持たない住居跡も発見され、この時期がからカマドへの移行期であったことが推定されている。

### 4 基本層序

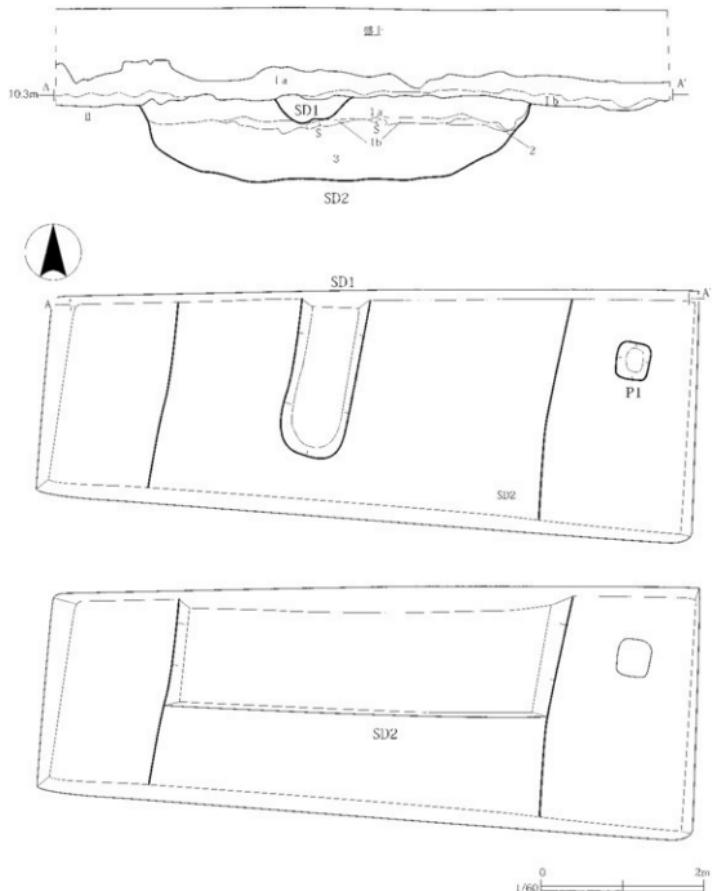
Ia層：暗褐色シルト（10YR 3/4）。盛上直下の旧畑耕作土である。厚さ20~40cmである。

Ib層：暗褐色シルト（10YR 3/4）。II層をブロック状に比較的多く含む。旧畑耕作土である。厚さ5~15cmである。

II層：褐色砂質シルト（10YR 4/4）。遺構検出面である。



第3図 調査区配図



層号・部屋	寸法・寸法	こだわり	属性	備考	備考	
1a	10Y3.3/4壁面色シルト	ややあり	均質		田舎耕作土	
1a	10Y3.4/4海面色シルト	ややあり	ややあり	Ⅱ層セリック中に比較的多く含む	通風排水土	
II	10Y4.4/4彩色地質シルト	ややあり	ややあり	砂質粘土		
SD1	10Y3.2/3底面色泥質シルト	ややあり	ややあり	緩む地物ごく少量含む		
1a	10Y4.3/3にかく質見山林千葉シルト	ややあり	ややあり	休耕地色黯、上部シルトの邊をごく少部分含む		
SD 2	1b	10Y3.4/3にかく質見山林千葉シルト	ややみる	ややあり	表面に赤土質・黄土質のコロッケを含む、褐色シルトの軟を多臓、細い物をごく少・含む	人為的治土
	2	10Y3.2/3底面色泥質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの上部グリックを多量含む	
	3	10Y3.5/3にかく質見山林千葉シルト	ややあり	ややあり	しまりあるが、一層より深い。物質シルトを多層状に含む	
PI	10Y3.4/4底面色均土乳シルト	ややあり	ややあり	Ⅱ層を灰灰にごく少量含む	自然堆積土	

第4図 平面・断面図

## 5 発見遺構と出土遺物

II層上面で、溝跡2条、ピット1基を検出した。

### 1) 溝跡

#### S D 1 溝跡

調査区中央で検出した、南北方向の溝跡である。S D 2溝跡と重複し、それより新しい。検出長は約1.9mである。規模は、上端幅約0.9m、下端幅約0.6m、深さ約30cmを測る。断面形は浅い逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層で、炭化物をごく少量含む暗褐色の砂質シルトである。

遺物は出土していない。

#### S D 2 溝跡

調査区中央で検出した、南北方向の溝跡である。S D 1溝跡と重複し、それより古い。検出長は約2.7mである。規模は、上端幅約4.7m、下端幅約4.3m、深さ約100cmを測る。断面形は、逆台形を呈する。堆積土は3層に大別される。1層は、にぶい黄褐色の粘土質シルトで、灰黄褐色、黒褐色、褐色の粘土質シルトを含む。2層は褐色シルトの粒、ブロックを多量に含む、暗褐色の砂質シルトである。これらは、人為的埋土と見られる。3層は、にぶい黄褐色の粘土質シルトを主体とするが、砂質シルトを互層状に含み、自然堆積土と判断される。

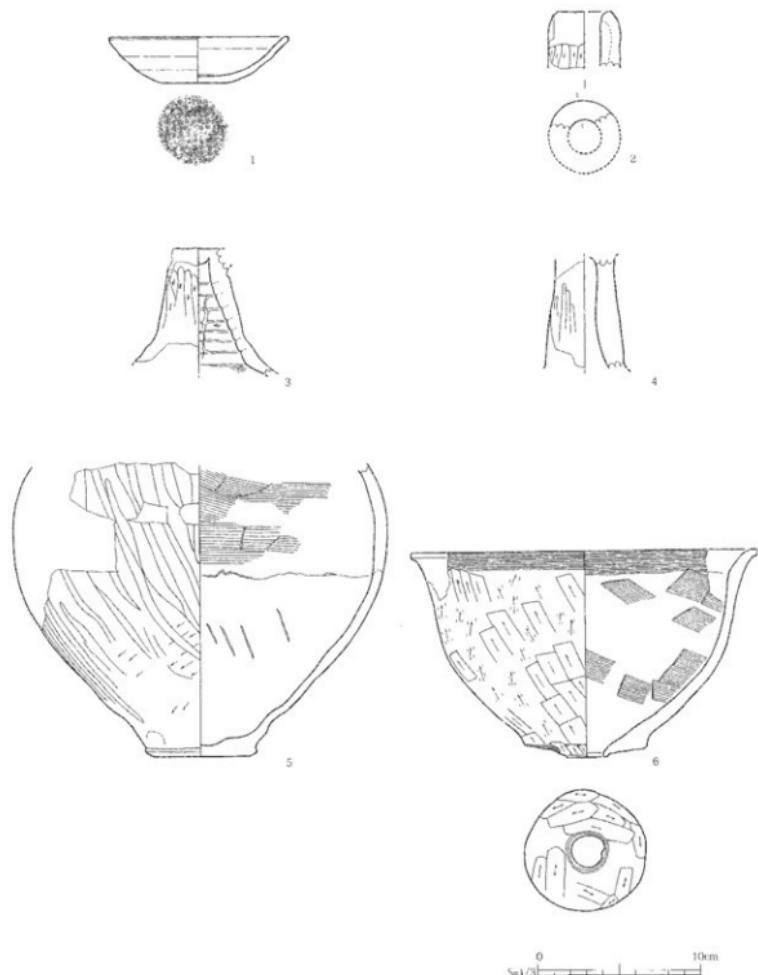
遺物は、1層では、ロクロ土師器壺・甕、須恵器壺・甕、赤焼土器壺（第5図-1）、土製品（第5図-2）などが出土している。3層では、土師器壺高壺（第5図-3、4）・甕（第5図-5）・瓶（第5図-6）、その他土師器の小破片が多数出土しているが、すべて非ロクロ調整のものである。

## 6 まとめ

今回の調査地点は、南小泉遺跡の中央南部に位置する。

今回の調査では、溝跡2条、ピット1基を検出した。

S D 2溝跡は、1、2層の人為的埋土と3層の自然堆積層とに大別される。自然堆積層（3層）からは、非ロクロ土師器が出土しており、ロクロ調整のものは確認できなかった。3層出土の土器類は、古墳時代中期の南小泉式期を中心とする土器群と考えられる。一方、人為的埋土である1層からは、ロクロ土師器や赤焼土器などが出土している。したがって、S D 2溝跡は、5世紀中期頃から徐々に堆積し、その後、概ね10世紀代に埋められたものと考えられる。溝跡の性格については、調査区の制約もあり、今後の検討課題である。



第5図 土土遺物

目次 番号	説明 参考	測定化 部位	上土 層位	種別	記號	計量(cm)			形数・品名	分類 園分
						高さ	幅	奥部		
1 1	U-1	SD2	1	漆地土器	34	2.8	11.0	4.1	内凹・ロタリナギ 外筋・ロタリナギ、底面擦り痕なし、周縁毛切り	2-1
2 2	P-1	SD2	1	漆地土器	ノイグ・407?	5.9-6.1	内径:2.2	内凹・板熱により削長、外筋・ヘラクズリなし	2-2	
3 3	C-1	SH2	3	漆コロナリ漆器	西面	(7.6)	-	(5.6)	内凹・側面ハサメ、ヘラクズリ・外筋・ヘラクズリ→ヘラミガキ	2-3
4 4	C-2	SD2	3	漆ロクロヒ・漆器	高巧	(7.2)	-	-	外筋・ヘラケズリ・ヘラミガキ	2-4
5 5	C-4	SD2	3	漆ロクロヒ・漆器	裏	(17.0)	-	6.6	PIN、有筋・ヘラケズリ・漆筋1号・ヘラテテカ、内筋・ヘラケズリ・ヘラケズリ、外筋・漆筋2号・漆筋1号	2-5
6 6	C-3	SD2	3	漆ロクロヒ・漆器	底(穿孔式)	21.2	7.4	12.7	外筋・丁度筋ロタリナギ、漆筋ヘラケズリ、外筋・丁度筋2号・ヘラケズリ、高筋・ヘラケズリ	2-6

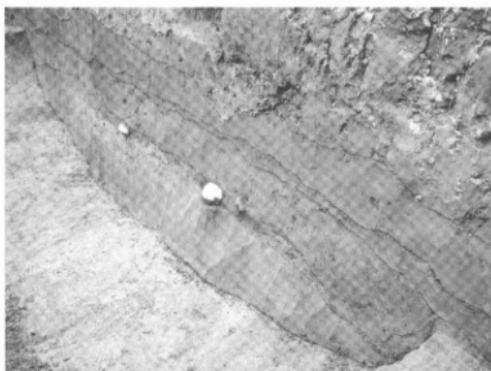
1 遺構検出状況（東から）



2 SD 2溝跡完掘状況（南西から）



3 SD 2溝跡断面（南東から）





1



2



3



4



5



6



写真図版 2

## IX 大野田官衙遺跡第3～6次発掘調査報告

### 1 調査要項

遺跡名 大野田官衙遺跡（宮城県遺跡登録番号01566）

調査地点 仙台市太白区 富沢駅周辺地区画整理事業地内

第3次 大野田字竹松9-1、14-1

（平成22年4月6日届出、H22教生文第114-87号回答）

第4次 大野田字竹松8-1、8-4、8-6、8-9の各一部

（平成22年6月25日届出、H22教生文第114-63号回答）

第5次 大野田字竹松20-5他

（平成22年8月3日届出、H22教生文第114-108号回答）

第6次 大野田字竹松9-1の一部

（平成22年8月19日届出、H22教生文第114-113号回答）

調査期間 第3次：平成22年8月3、4日 第4次：8月30、31日 第5次：8月31日、9月1日

第6次：9月1、2日

調査面積 第3次：25.5m<sup>2</sup> (69.56m<sup>2</sup>) 第4次：24m<sup>2</sup> (120.65m<sup>2</sup>)

第5次：24m<sup>2</sup> (79.0m<sup>2</sup>) 第6次：16.5m<sup>2</sup> (49.2m<sup>2</sup>)

調査原因 個人住宅建築工事

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係

担当職員 主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

### 2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条に基づき実施した。確認調査を実施したところ、各調査区で遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。調査区は、いずれの調査も住宅建築範囲内に設定した。

適宜、平面・断面図 (S=1/20、1/50) を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。なお、調査区の位置については、23頁第1図に示した。

### 3 遺跡の位置と環境

大野田官衙遺跡は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から北東約0.4kmの地点に位置する。名取川の北側にあり、郡山低地と呼ばれる名取川とその支流の荒川により形成された自然堤防と後背湿地上に立地する。

大野田官衙遺跡周辺は、大野田古墳群、六反田遺跡などの遺跡が密集する地域である。

当遺跡は、規則的に配置され、規格性のある大型建物跡とそれを囲む溝跡からなる古代の官衙跡である。これまで「富沢駅周辺地区画整理事業」に伴い発掘調査が進められてきたが、古代官衙跡としての遺構の全容を把握するための調査や遺構配置を想定した調査を平成20年度から実施するようになり、平成21年7月に大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡のうち、官衙を区画する溝跡に囲まれた部分を大野田官衙遺跡として登録している。

### 4 基本層序

I層：盛土直下の旧水田耕作土である。地点によって2層に細分される。

IV層：古代遺構の検出面である。

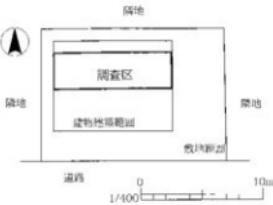
V層：古代遺構の検出面である。

当遺跡周辺に堆積するII、III層は、いずれの調査区でも確認されなかった。

## 5 発見遺構と出土遺物

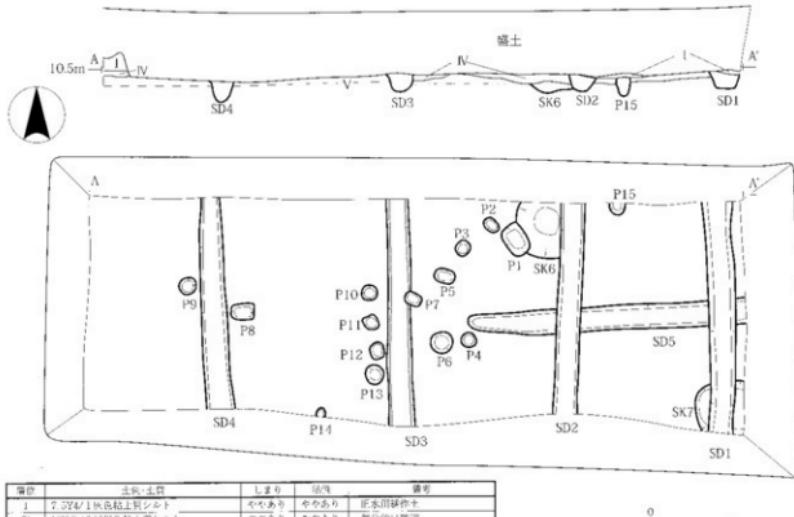
### 1) 第3次調査

溝跡5条、土坑2基、ピット15基を検出した。今回の調査で検出した遺構は、V層上面まで掘り下げ検出したが、壁断面の観察によりSD1～3溝跡はIV層上面からの掘り込みであること、SK6土坑はIV層に覆われていることが確認された。その他の遺構については盛上直下のV層上面が検出面である。



### (1) 溝跡

5条検出した溝跡のうちSD1溝跡～SD4溝跡は小溝状遺構群の一部であると考えられる。



番号	土坑・土質	しまり	活用	備考
I	7.5YR 4/1灰褐色土質シルト	ややあり	ややあり	正水田耕作土
II	10YR 2/3灰褐色土質シルト	ややあり	ややあり	部分的に確認
V	10YR 5/3にいぶる深褐色土質シルト	ややあり	ややあり	

0 2m  
1/60

遺構	平面・土質	特徴	しまり	深入れ物	検出長	上端幅(実測)	下端幅(推定)	厚さ
SD 1	10YR 3/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの鉢、マンガン鉱を多量含む、白色シルトの鉢をごく少含む	2.8	35	20	20
SD 2	10YR 4/2・3褐色土質シルト	ややあり	ややあり	マンジン鉱を少量含む	2.6	30	18	20
SD 3	10YR 3/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	褐色熟土質シルトのブロックを多量、マンガン鉱を少量含む	2.8	34	16	25
SD 4	10YR 3/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	青砂利熟土質シルトのブロックを多く、時に多量含む	2.0	28	20	25
SD 5	10YR 3/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	青砂利熟土質シルトのブロックを多量、マンガン鉱を少量含む	3.4	36	20	24
SK 6	10YR 3/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブロックを多量含む	—	70	(68)	20
SK 7	10YR 4/4褐色土質シルト	ややあり	ややあり	マンジン鉱を多量含む	—	(65)	(60)	16

平均: 検出長: 60cm 幅: 15cm

遺構	平面・土質	内容	しまり	深入れ物	検出長	上端幅(実測)	下端幅(推定)	厚さ
P 1	30YR 2/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	49 × 32 × 18	P 9.1	20 × 19 × 14	
P 2	30YR 4/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	29 × 15 × 25	P 9.2	20 × 19 × 14	
P 3	30YR 2/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの鉢を多量含む	18 × 17 × 26	P 10.1	19 × 19 × 20	
P 4	30YR 2/4褐色色付土質シルト	あり	ややあり	—	18 × 15 × 25	P 10.2	20 × 19 × 20	
P 5	10YR 2/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	25 × 18 × 36	P 11.3	20 × 22 × 12	
P 6	10YR 3/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	27 × 25 × 12	P 11.4	10YR 3/4褐色色付土質シルト	13 × 10YR 3/4褐色色付土質シルト
P 7	10YR 4/4褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	20 × 15 × 9	P 11.5	10YR 2/3褐色色付土質シルト	18 × 10YR 2/3褐色色付土質シルト
P 8	10YR 2/3褐色色付土質シルト	ややあり	ややあり	—	27 × 19 × 30	—	—	—

Figure 2: Plan and cross-section diagram of the third survey.

小溝状遺構群1は、南北方向の遺構群で、SD1溝跡～SD4溝跡からなる。検出長は約2.6～2.8mである。規模は上端幅28～35cm、下端幅16～20cm、深さ20～26cmを測り、断面形はU字形を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.9～2.2m程度である。遺物は、SD1溝跡からロクロ土師器壺片、内面を黒色処理したロクロ土師器壺片、SD2溝跡から土師器片、SD3溝跡から内面を黒色処理したロクロ土師器壺片がそれぞれ出土しているが、いずれも小片であり、時期等については不明である。

SD5溝跡は、東西方向の溝跡である。検出長は約3.4mである。上端幅36cm、下端幅20cm、深さ14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

## (2) 土坑

SK6土坑の規模は約70cm×68cm以上、深さ約20cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。土師器壺の小片が4点出土している。SK7土坑の規模は60cm以上×65cm以上、深さ16cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

## (3) ピット

15基検出したが、建物跡を構成するような有意な配列は認められなかった。遺物は出土していない。

## 2) 第4次調査

溝跡6条、ピット1基を検出した。すべての遺構をV層上面で検出した。

### (1) 溝跡

SD1溝跡とSD2溝跡、SD5溝跡とSD6溝跡はそれぞれ同一の小溝状遺構群の一部であると考えられる。

小溝状遺構群1は、東西方向の遺構群である。SD1溝跡、SD2溝跡からなる。検出長は6.4～6.6mである。規模は上端幅23～48cm、下端幅18～30cm、深さ12～22cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.2m程度である。遺物は出土していない。

小溝状遺構群2は、南北方向の遺構群である。SD5溝跡・SD6溝跡からなる。検出長は0.4～0.7mである。規模は上端幅21～32cm、下端幅20～26cm、深さ11～14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.6m程度である。遺物は出土していない。

SD3溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約0.2mである。規模は上端幅38cm、下端幅28cm、深さ8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

SD4溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約0.3mである。規模は上端幅44cm、下端幅40cm、深さ2cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

## (2) ピット

1基検出したが、柱痕跡等は確認できなかった。遺物は出土していない。

## 3) 第5次調査

溝跡1条、ピット3基を検出した。すべての遺構を、盛土直下のV層上面で検出した。

### (1) 溝跡

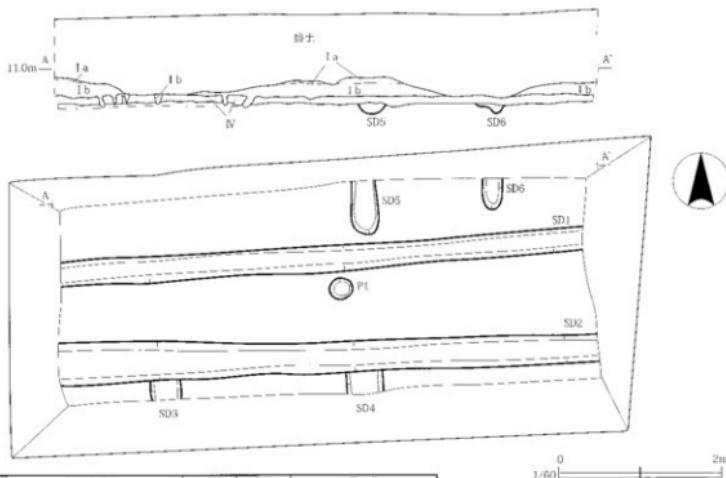
SD1溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約1.0mである。規模は



第3図 第4次調査 調査区配置図



第4図 第5次調査 調査区配置図



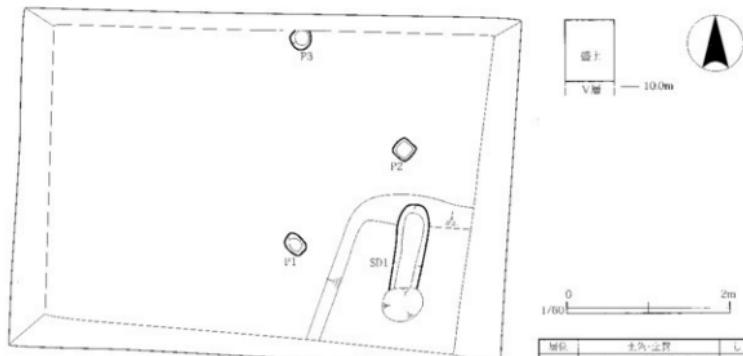
層位	土色・土質	しまり	粒性	構造
Ia	5YR 5/2 黄褐色土質シルト	ややあり	中やあり	凹木面耕作土
Ib	2.5Y 6/6 明黄色土質シルト	ややあり	ややあり	凹木面耕作土
IV	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	
V	2.5Y R 4/4 黄褐色土質シルト	ややあり	ややあり	

1/60 0 2m

層位	土色・土質	しまり	粒性	插入物等	粒径	上層幅(目視)	下層幅(目視)	深さ
SD1	10Y R 3/2 黄褐色土質シルト	ややあり	ややあり	—	6.1	23	—	12
SD2	10Y R 3/2 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	—	6.6	46	30	22
SD3	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	透かし土質シルトの粒を少含む	0.2	38	28	8
SD4	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	透かし土質シルトの粒を多く含む	0.3	—	44	40
SD5	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	透かし土質シルトの粒・ブロックを比較的多く含む	0.7	32	36	14
SD6	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	透かし土質シルトの粒・ブロックを比較的多く含む	0.4	24	—	11
P1	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	透かし土質シルトのブリックを多量含む	—	30	22	8

基盤/底面高さ.m 墓標.m

第4図 第4次調査 平面・断面図



層位	土色・土質	しまり	粒性	構造
V	10Y R 3/2 淡褐色土質シルト	ややあり	あり	

層位	土色・土質	しまり	粒性	構造
SD1	10Y R 3/4 淡褐色土質シルト	ややあり	あり	V型ブロックを多量含む
P1	10Y R 3/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	V型ブロックを少含む
P2	10Y R 2/3 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	V型の粒・ブロックを比較的多く含む
P3	10Y R 3/4 淡褐色土質シルト	ややあり	ややあり	V型の粒をごく少量含む

基盤/底面高さ.m 墓標.m

第5図 第5次調査 平面・断面図

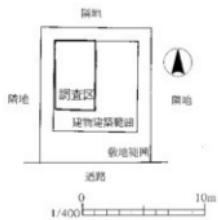
上端幅35cm、下端幅20cm、深さ9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

## (2) ピット

3基検出したが、建物跡を構成するような有意な配列は認められなかった。遺物は出土していない。

## 4) 第6次調査

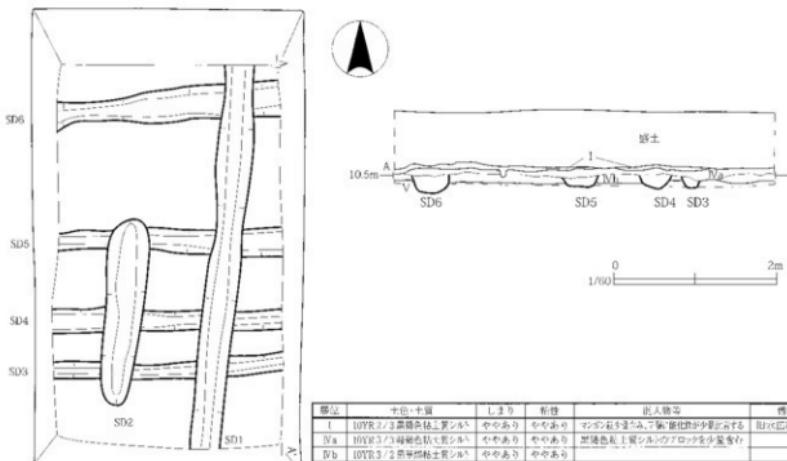
溝跡6条を検出した。いずれも、IVb層上面での検出である。



小溝状遺構群1は、東西方向の遺構群である。SD3~6溝跡からなる。検出長は2.7~2.8mである。規模は上端幅20~45cm、下端幅8~23cm、深さ14~21cmを測り、断面形はU字状ないし逆台形状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で0.6~1.6m程度である。遺物は出土していない。

S D 1溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約4.7mである。規模は上端幅45cm、下端幅18cm、深さ21cmを測り、断面形はJ字状を呈する。遺物は出土していない。

S D 2溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約2.3mである。規模は上端幅50cm、下端幅35cm、深さ14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

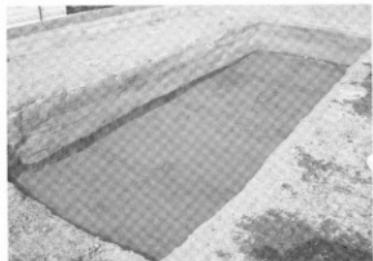


層位	土色・土質	軸性	しまり	深入軸跡	復縫			
					上部(長径)	F端標(短径)	ボルト	
SD 1	10YR 2/3 黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり	褐色シルトの塊へペロックを含む	4.7	45	18	21
SD 2	10YR 2/3 黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの塊を含む	2.3	30	35	14
SD 3	10YR 3/2 黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの塊を含む	2.8	20	20	14
SD 4	10YR 3/2 黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの塊を含む	2.8	40	8	17
SD 5	10YR 3/2 黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの塊を含む	2.7	45	22	15
SD 6	10YR 2/3 黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの塊を含む	2.7	15	23	21

第8図 第6次調査 平面・断面図

## 6まとめ

各調査区で、小溝状遺構、溝跡、土坑、ピットなどを検出した。  
官衙に隣接する遺構は検出されなかった。



1 3次調査 遺構検出状況（南西から）



2 3次調査 遺構完掘状況（西から）



3 4次調査 遺構検出状況（東から）



4 4次調査 遺構完掘状況（西から）



5 5次調査 遺構検出状況（南東から）



6 5次調査 遺構完掘状況（南東から）



7 6次調査 遺構検出状況（南東から）



8 6次調査 遺構完掘状況（南から）

写真図版1

## 報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん							
書名	仙台平野の遺跡群							
副書名	平成22年度発掘調査報告書							
巻次	21							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第392集							
著者名	慶瀬真理子・吉野信							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1-1 電話 022-214-8894							
発行年月日	平成23年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
六 反田遺跡 (6次)	仙台市太白区大野田字六反田 27-6の一部、27-7の一部	4100	01189	38°21'77"	140°87'46"	2010.6.28 2010.7.2	21m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
六 反田遺跡 (7次)	仙台市太白区大野山字六反田 27-6, 27-7, 29-35-1の各一部	4100	01189	38°21'77"	140°87'44"	2010.7.7 2010.7.14	34m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
六 反田遺跡 (8次)	仙台市太白区大野山字六反田 土地区画整理事業地内6-1街区	4100	01189	38°21'80"	140°87'51"	2010.9.6 2010.9.10	15m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
鳥居塚古墳 (3次)	仙台市太白区大野田字土ノ越 1-1, 1-2の各一部	4100	01361	38°21'39"	140°87'61"	2010.6.7 2010.6.9	22m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
鳥居塚古墳 (4次)	仙台市太白区大野田字宮 15番4	4100	01361	38°21'39"	140°87'59"	2010.9.6 2010.9.13	40m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
鳥居塚古墳 (5次)	仙台市太白区大野田字 王ノ塚1-1, ほか	4100	01361	38°21'38"	140°87'61"	2010.9.13 2010.9.17	42.5m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
南 小泉遺跡 (64次)	仙台市若林区遠見塚 一丁目37-8	4100	01021	38°23'58"	140°91'11"	2010.10.18 2010.10.19	24m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
大野山官衙遺跡 (3次)	仙台市太白区大野田字竹松 9-1, 14-1	4100	01566	38°21'59"	140°87'57"	2010.8.3 2010.8.4	25.5m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
大野田官衙遺跡 (4次)	仙台市太白区大野田字竹松 8-1, 8-4, 8-6, 8-9の各一部	4100	01566	38°21'63"	140°87'54"	2010.8.30 2010.8.31	24m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
大野田官衙遺跡 (5次)	仙台市太白区大野田字竹松 20-5他	4100	01566	38°21'56"	140°87'61"	2010.8.31	24m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
大野山官衙遺跡 (6次)	仙台市太白区大野田字竹松 9-1の一部	4100	01566	38°21'59"	140°87'56"	2010.9.1 2010.9.2	16.5m <sup>2</sup>	個人住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	記述項			
六 反田遺跡 (6次)	集落跡	縄文～古代、近世	堅穴住居跡、溝跡	土師器、須恵器				
六 反田遺跡 (7次)	集落跡	縄文～古代、近世	掘立柱建物跡	土師器、須恵器				
六 反田遺跡 (8次)	集落跡	縄文～古代、近世	溝跡	土師器、須恵器				
鳥居塚古墳 (3次)	前方後円墳	古墳中期	周溝	土師器	後円部周溝			
鳥居塚古墳 (4次)	前方後円墳	古墳中期	周溝	埴輪、繩文土器	後円部周溝			
鳥居塚古墳 (5次)	前方後円墳	古墳中期	周溝	埴輪	後円部周溝			
南 小泉遺跡 (64次)	集落跡、埋蔵跡	縄文～近世	溝跡	赤燒土器、ロクロ土師器、折ロクロ土師器、土製品				
大野田官衙遺跡 (3次)	官衙跡	奈良～平安	溝跡、土坑	土師器				
大野田官衙遺跡 (4次)	官衙跡	奈良～平安	溝跡	なし				
大野山官衙遺跡 (5次)	官衙跡	奈良～平安	溝跡	なし				
大野山官衙遺跡 (6次)	官衙跡	奈良～平安	溝跡	なし				

要 約	六反山遺跡第6次調査では、堅穴住居跡1軒、溝跡6条、ビット2基を検出した。堅穴住居跡は、出土遺物から、9世紀後半には廃絶したものと考えられる。
	六反田遺跡第7次調査では、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ビット15基を検出した。掘立柱建物跡の柱抜取り穴からクロロ土師器などが出土した。また、同抜取り穴から須恵器・平瓶が出土し、大野田官衙廃絶後の土地利用との関わりが推測される。
	六反田遺跡第8次調査では、溝跡5条を検出した。古代の畑耕作に關わる小溝状構造と、性格不明の溝跡の2種類である。
	鳥居塚古墳第3～5次調査では、後円部周縁のうち、北東・北・北西部にあたる周溝を検出した。
	南小泉遺跡第64次調査では、溝跡2条、ビット1基を検出した。そのうち、SD2溝跡は、堆土が自然堆積と人为的埋土とに大別され、自然堆積層からは古墳時代中期南小泉式期に属すると考えられる土器、人为的埋土からはクロロ土師器や赤燒土器などが出土した。

---

仙台市文化財調査報告書第392集  
**仙台平野の遺跡群21**  
発掘調査報告書

2011年3月

発行 仙台市教育委員会  
仙台市青葉区二日町1-1  
文化財課 TEL 022(214)8894

印刷 遠山青葉印刷株式会社  
仙台市青葉区八日添二丁目5-24  
TEL 022(272)7371

---

